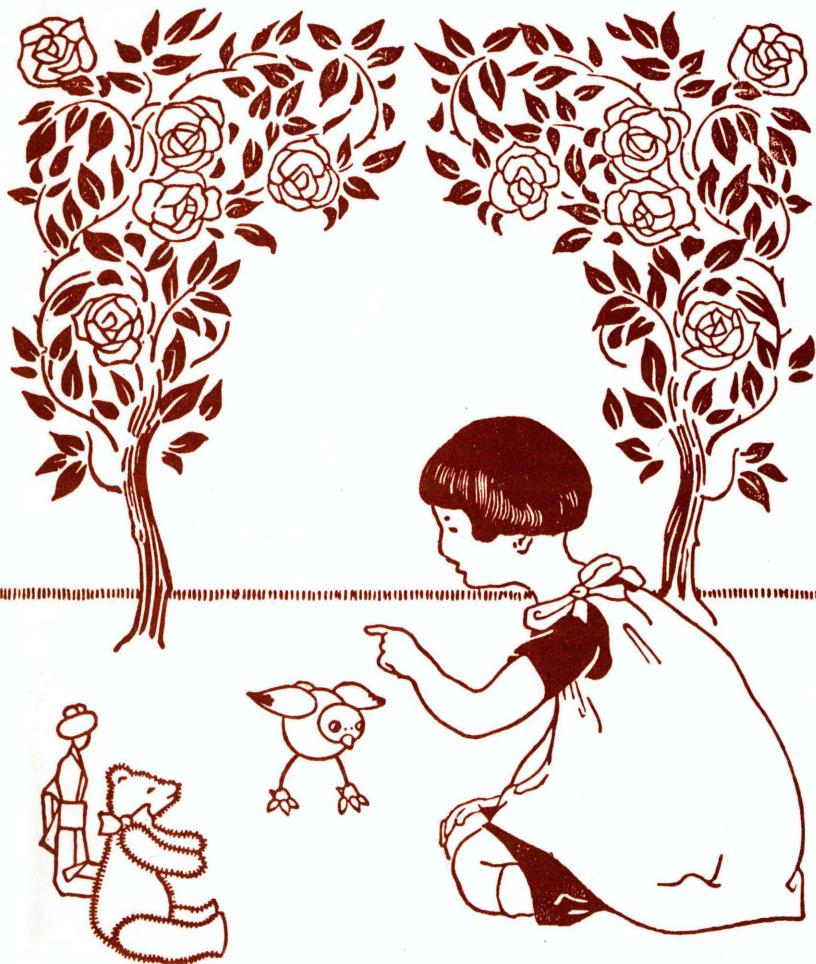


幼兒の啟教

第十八號 月一號 卷八十二



東京女子高等師範學校内會
日南幼稚園協會

廣島高等師範學校教授

文學博士 久保良英先生新著

四六判全一冊洋銀
定價金貳圓 送料金十八錢

新刊

愛兒良教の教育実驗

本書の全文は悉く眞摯なる學者の児童教養實驗記録で有

久保博士は本書自序の一節に「良毅は私の學位論文の中の言語の發達の資料を供給して呉れた」とある如く、君は其生前、博士の兒童研究のよき伴侶であつた。博士は今其悼み、其悲み、其涙を新にして以て本書を著す。且又「彼の生立の全部を心理學的に記述して多少なりとも彼の此世に於る存在の意義を更に深め度い」と敬虔ふに及ばず御讀を乞ふ。

實驗心理學精義

三版

■簡単なる行動篇
■複雜なる行動篇

菊判全一冊紙收八百頁挿圖貳百

定價金六圓 送料金廿七錢

菊判全一冊紙數八百頁挿圖貳百

定價金六圓 送料金廿七錢

久保良英著
文學博士
好評赫々

久保博士の實驗心理學精義は蓋し學界の至寶である。日本唯一の施設兒童研究所を開拓せし所は其の研究者とその開拓者たるに對しては決して獨斷的私見を反らす、且つその結果相背離せる所を周到熱切に詳述せるものなるを以て書中最新學說の充満せる事は言を俟たず、且つ本書述の最もも特點とする所は其の研究者が唯單に單純的實驗的應用方面に多大の意を注ぎたる點で、如上開傳者の外文被學者必讀すべき書工興味

行發所 東甲牛市 番九卅町地區 文中書館 牛込市 東京

電話牛込三三三二五二四八七二番

最 新 刊

教育の理論を説いた書は多い、方法を教へた書は更に多い。しかし教育の心を語つた書は少ない。とりわけ眞現代の日本が生んだ唯一の幼児教育の權威たる著者は、永くお茶の水の幼稚園の主事として令名噴々たる人。本書は著者が多年幼児の間に在つて體得した獨自の感想と考察とを述べて、幼児の生活を中心とした人間教育の眞意を味到せしめるが爲めに、教育者と家庭の母とに贈つたものである。或は詩趣に充ちた感想文があり、教育の理想國を描いた創作があり、或は著者の溫容を彷彿せしむる講話があり紀行觀察録がある。豊かな興味と深き感銘と清き教訓とは、そのまゝ著者の心より讀者の胸へ流れ渡つて盡きないものがあらう。

ん△か幼茶 5 森大のが月ぶ正歴ひ家さ園
を幼△稚△詩主の災水來のべ月△▽の△丁
初稚幼園夏の義幼とにた野き△有また自然稚
て園稚の子會 3 雅歸鶴▽へ春寒袋も然感
幼を園生 6 園聞る幼△よ風譜とにと△
稚終の活 4 園教△稚う▽▽▽▽▽▽の△
聞了此 7 園教育△稚う△△△△△△の△
にす頃 5 庭藝△△△△△△の△
送る△幼△接主△△△△△△の△
る兒新稚△任森△△△△△△の△
方童入園△に達園は△△△△△△の△
に達△如△研究△△△△△△の△
家△を何△△△△△△の△
庭お迎△△△△△△の△
子へなる△△△△△△の△
と幼△△△△△△の△

◆幼稚園保育要目

◇幼児に聽かせるお話

倉橋惣三先生序
日本幼稚園協會編

定價 參圓八拾錢
送料 拾八錢
定價 壹圓五拾錢
送料 拾貳錢

東女京子高等師範學校教授 倉橋惣三氏著

◇四六判特製美本函入
◇定價金貳圓五拾錢
◇送料金拾八錢
◇紙數五百二十餘頁

内田老鶴庵

電 話 替 東 京 一 二 一 四 六 五 三



日本幼稚園協会編輯會の育教

東京女子高等師範學校長 吉岡郷甫
附屬幼稚園主事 堀藏七

日本幼稚園協會規則

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ル
ヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ
關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノ

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五
錢ヲ醸出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會會行
雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種
ノ便宜ヲ受ク

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業
ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員
トナスコトアルベシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會
ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ナ與ヘラル、モノニ
請ヒテ地方委員トナベコトアルベシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場
合ニヨリ臨時休會スルコトナ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
一、幼兒教育ニ關スル研究及ビ調査
二、幼兒教育ニ關スル講演會及ビ講習會ノ

- 一、雜誌發行(毎月一回)
- 二、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
- 三、保育就職及招聘ニ關スル仲介
- 四、其他不會ノ目的ニ裨益アリト認メタル
事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
會長 一名 會務ヲ總理ス
幹事 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌
理ス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノト
幹事 若干名 重責ナル事件ニ關シ會長
ノ諮詢ニ應ズ
評議員 若干名 分掌ス

第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ月年期

シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ
又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席員會ノ三分ノ二
以上ノ同意ヲ得ルニアラザンハ變更スルコ
トヲ得ズ



號八十二第 幼兒の教育 第十第一號

—(次 目)—

口 繪 運動會・秋季大運動會

紐育の保育學校の保育室・屋上運動場のすべり台

奉 祝 11

偶 感 吉岡 卿甫 四

私の視察したる米國の幼稚園教育(三) 堀 七藏 六

幼兒期の情意教育に就て(四) 大塚 喜一 二四

我國最初の保姆豊田美雄女史を訪ねして 倉橋 惣三 三一

葡萄 さあり三四

アメリカの幼兒教育を見て(一) 宮田 覚造 三八

斷 片 一 保 媽 四一

狸が思を返した話 金子 彦二郎 四六

連續的作業を中心としての手技 及川 ふみ 五五

十二月の幼兒生活 ト 部 たみ 五九

幼児の手技研究會プログラム

一、本會は幼稚園及保育所及託兒所に於ける手技保育の完成を目標として猛研究をするのでございます。

一、本會は毎月一回研究會を開催し新資料の研究製作をして居ります。

一、幼兒の教育にたづさわる先生殊に若い先生方は振つて毎月會に御出席下され手技手藝について充分の趣味と器用とを養はれんことは直に園児の幸福は勿論のこと其の先生自身の幸福であります。非常に必要なことと思ひます。

一、遠方の方或は出席しがたい方の爲に通信研究部の設がありまして毎月の資料を作成してお送りして居ります、まだ御入會のない方は至急御申込を願ひます。

一、會費 材料代共毎月六十錢（出席會員）通信部は別に送料を要す。

市内六錢 内地十二錢 鮮滿四十五錢 臺灣三十錢

通信部會員御希望は毎月會費と送料を合算し申込を早く。

送金のこと。但し送金はあとにてよろし。ふ

◎十一月會（クリスマス）

（1）撫子の造花（2）折紙挿（3）桃太郎さん籠（4）象の製作玩具

（5）屑（1）松日の出（2）拳球（3）紙の切（4）雪の輪と雪達つなぎ方（5）ばらの花籠

（6）フラン人形（幼兒の教育口絹）（豫定）

以上

◎十二月會

御大典紀念 折紙帖 分額

折紙は特に日本の子供に惠まれた手技です茲に大典奉祝の赤誠をこめて全部百數十種をまとめました。幼稚園及小學校及家庭の寶典でありますと信じます。立派な帖でございます。

人でも順に折つて見れば易く解ります、一寸忘られたいといふ場合には見ればすぐ解ります。頗る重寶と思ひます。

價額 特上製 全一冊 六圓五十錢

ち申込順に出来た側から発送致します。一々叮嚀に手先で折るのでござりますから大量至急製作といふ譯にはまいりません。以上

東京市牛込區納戸町六番地

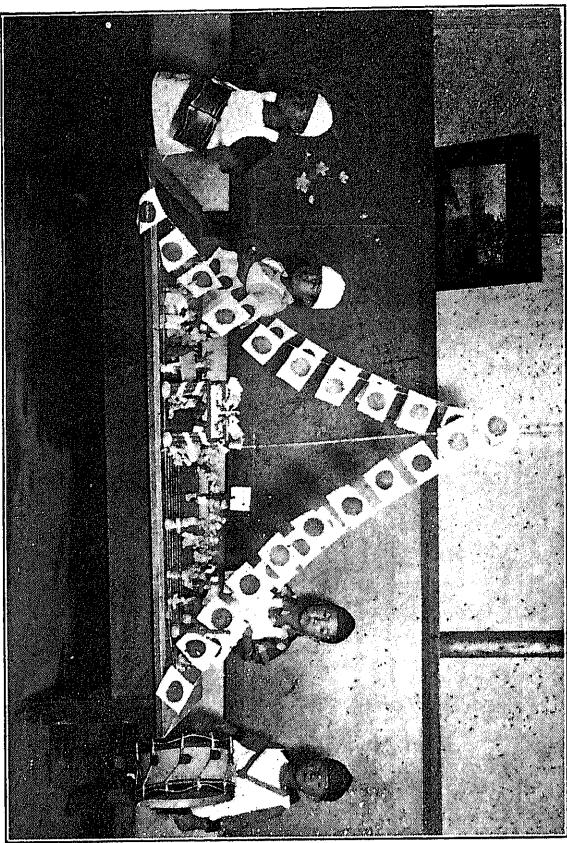
東洋幼稚園牛込分園内

昭和三年十一月

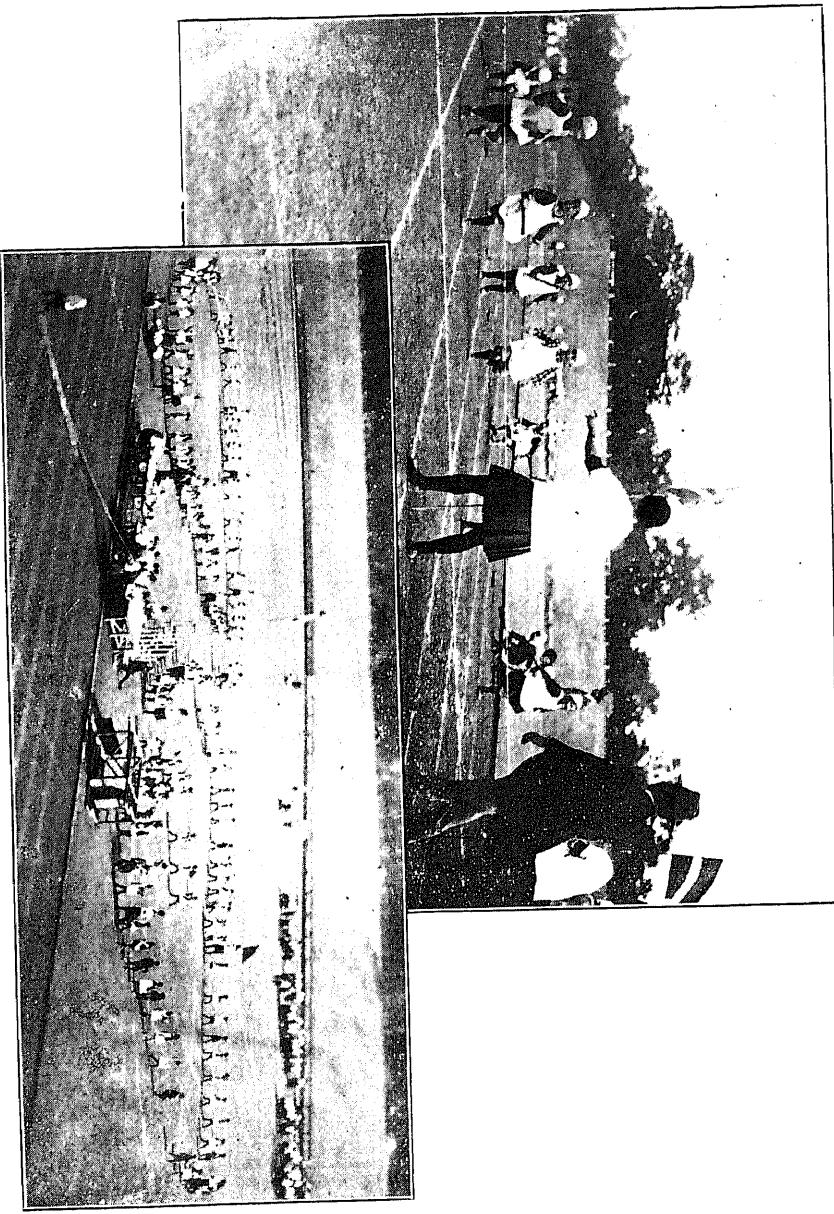
振替東京六六五八八〇番

幼兒の手技研究會

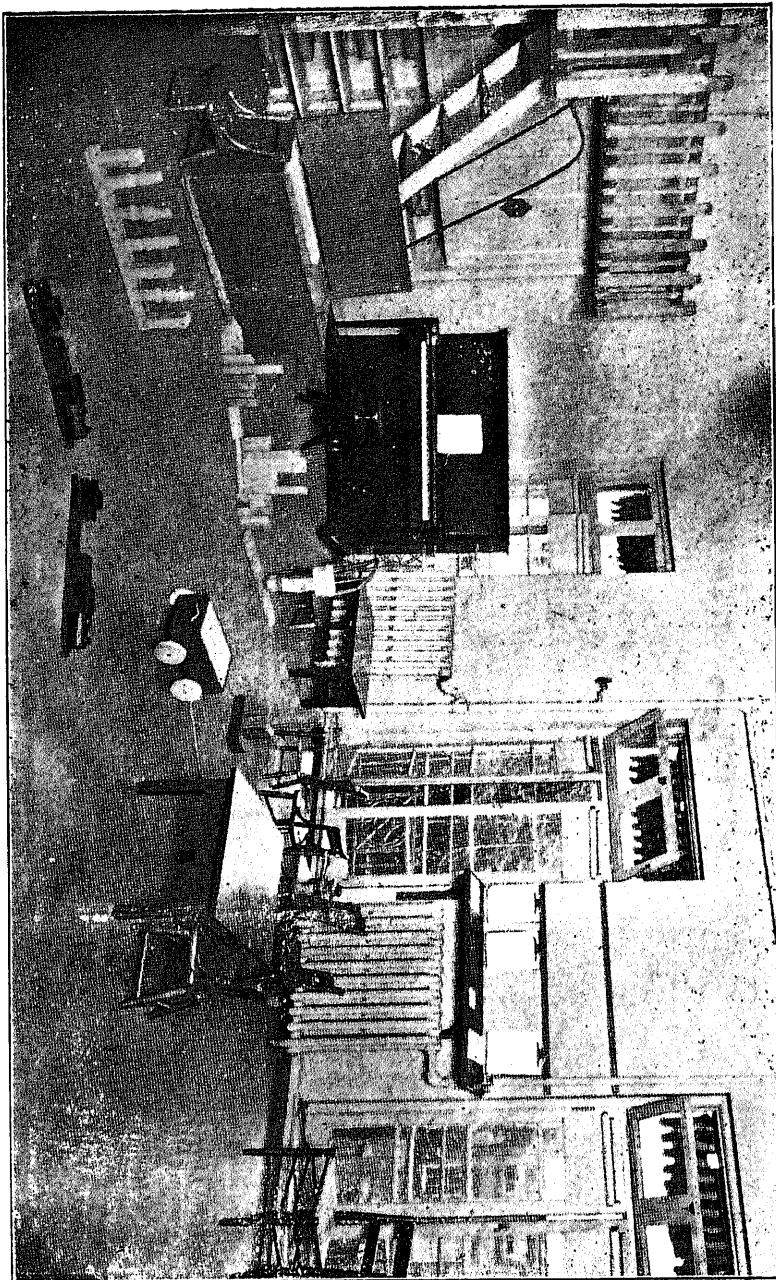
景 墓

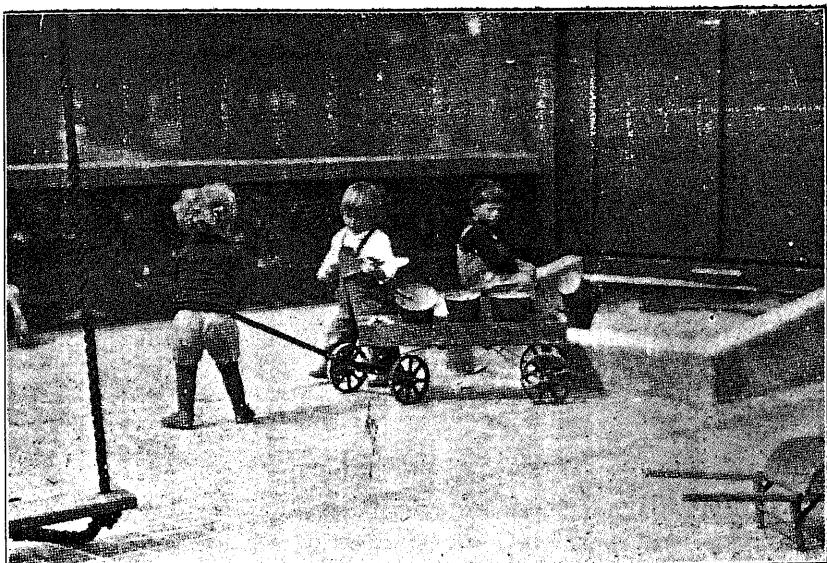


秋季大運動會 (上) 旗ひろび (下) 旗行列

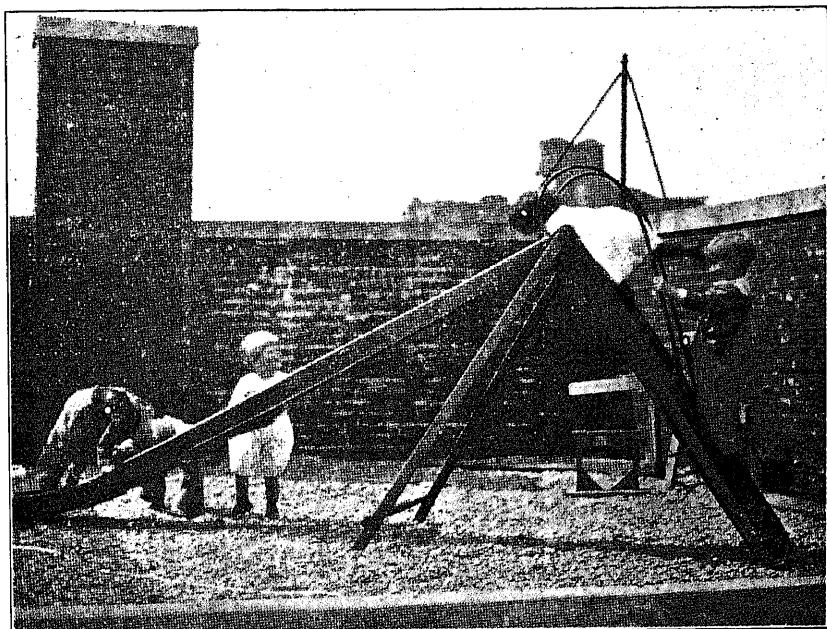


経済の保育学校の保育室

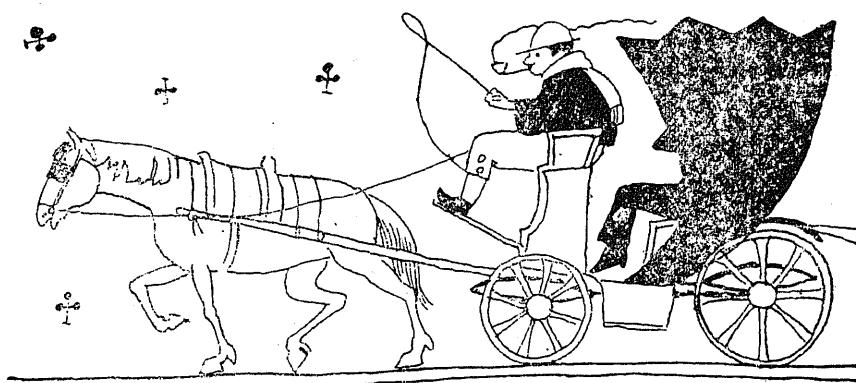




屋上運動場



屋上運動場のすべり台



號一十第一 幼兒の教育 卷八十二第

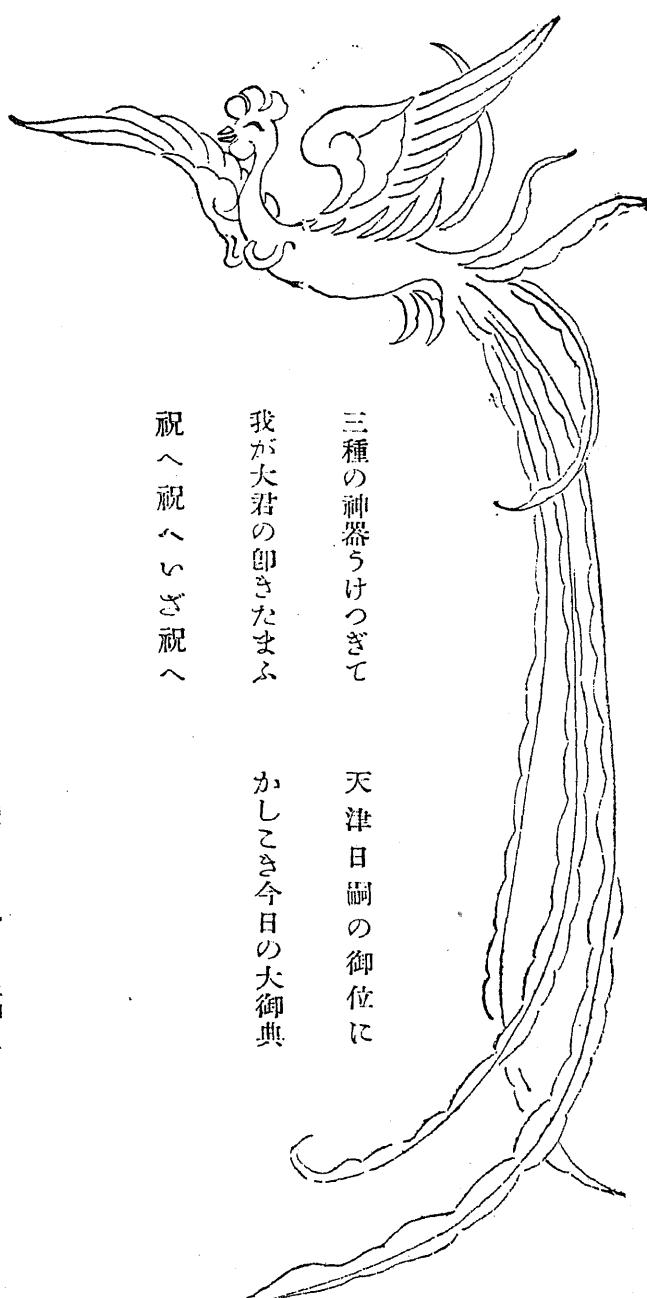
月一十年三和昭

一、教育で家庭教育位重要なものはありません。家庭教育の良否は實に人一生を支配し國家の發展を左右するのであります。最近の學術は益々家庭教育の重大なる使命を立證し近時の社會現象は善良なる家庭教育の必要を痛感せしめてゐます。

一、家庭教育の短を補ひ幼兒の心身を充分に發達せしめ將來受くべき學校教育の基礎を築くものは幼稚園保育であります。幼稚園保育の重視すべきことは天下一人も異議がないのであります。

一、幼兒の教育は本邦唯一の幼稚園保育に關する發表機關であります。而してまた本邦唯一の家庭教育雑誌であります。

一、幼兒の教育は幼兒の教育、即ち家庭に於ける教育と幼稚園に於ける教育、更に小學校初學年教育に關する事項は細大となく網羅し、以て家庭教育の向上を計り、幼稚園保育の進歩發展を期する大抱負をもつて産れたもので有ります。



三種の神器うけつぎて
我が大君の即きたまふ

天津日嗣の御位に
かしこき今日の大御典

祝へ祝へいざ祝へ

悠紀主基の田の新稻を

神饌とさゝげて皇神に

在すが如く仕へます

御代の初の大御典

祝へ 祝へ いざ祝へ

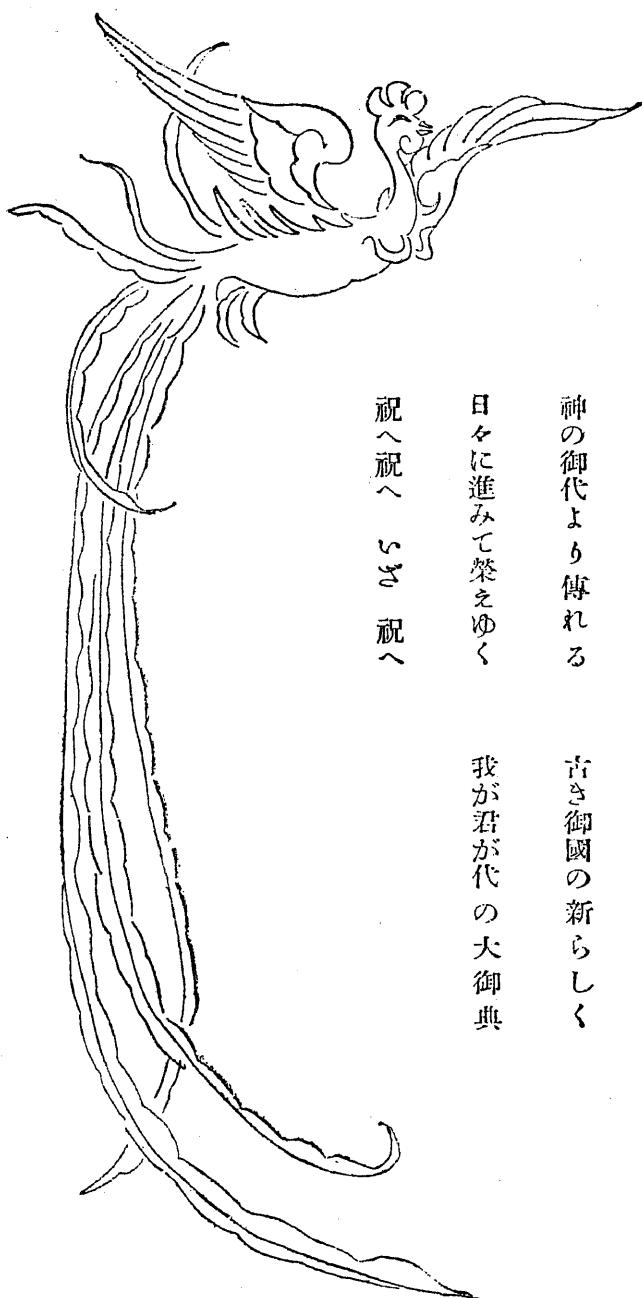
神の御代より傳れる

古き御國の新らしく

日々に進みて榮えゆく

我が君が代の大御典

祝へ祝へ いざ 祝へ





偶 感

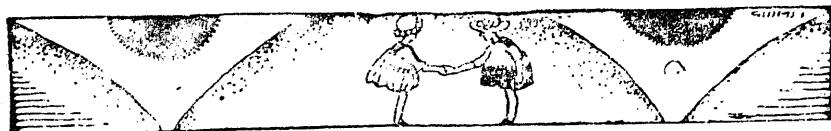
東京女子高等師範學校長

吉岡 剛甫

四

本年十一月、天皇陛下御一代一度の大禮が行はれる。吾等臣民は満腔の赤誠を以て之をお祝ひ申上げると共に、益々其の本務に奮勵して國運の發展に資するところがなければならぬ。吾等の本務は幼児を保育するに在る。幼児期は人の一生を通じて最も感受性の強い時期である。

吾等は吾等の幼児に與へる感化が次代の國民の資質に至大の影響を及ぼすことを思ひ、常に幼児の心身を健全に發達させ、善良な性情を涵養するに於て、最善を盡さなければならぬ。明治天皇の御製には其の題材に幼児又は幼児の教育を取扱になつたのが多い。其の中次の御製は特に吾等をも諭しなつたものとして、日夜之を拜誦したいと思ふのである。



國のため力つくさむわらはべを

教ふる道に心たゆむな

すなほにもおほしたてなむいづれにも

かたぶきやすき庭のねか竹

朝夕にまもり育つるをしへ子は

うみの子のごとかなしかるらむ

私の視察したる米國の幼稚園教育（三）

堀 七 藏

一

幼稚園教育を創始したフレーベル氏が獨逸人であることは誰も御承知の如くであります。所が幼稚園教育はドイツで左程盛んではなくて英米佛等で盛大であります。一寸不思議のやうでありますが實は相當の理由があります。歐米諸國で家庭の主婦が子女の教育に専心する所は何といつても獨逸であります。獨逸の婦人は他國の女に比べると餘程家庭的で、子女の養育は専ら婦人の手にあります。従つて幼稚園教育は左程盛んではありません。近時工業の隆盛となるにつれ工場生活をなすものが増加し、職業婦人が激増した爲めに幼稚園も託児所式のものが多くなり、託児所が急に増加したのであります。それでも米國などには遠く及ばないのであります。ドイツは兎に角として米國は個人主義が大いに發達し、アバトメントの生活者が甚だ多い爲めに幼稚園も託児所も亦保育學校も甚だ多いのであります。所謂公立の小學校にも必ず幼稚園が附設せられて居り、二組か四組位の幼稚園が公立で經營せられてゐます。英國小學校には幼稚學校と稱し、満五歳から義務教育として入學してゐるに對し、北アメリカ合衆國では

義務教育が満六歳からで、それ以前に三ヶ年の幼稚園が各小學校に附設してあります。従つて悉く幼稚園に入園する譯ではありませんが幼稚園の普及してゐるのが何といつても米國が第一であります。試みに統計を見ると五歳及び六歳兒の入學數は百九十二萬以上で同年齢者全體の四十一%であります。これを七歳より十三歳までの入學兒童千三百八十七萬に比すれば約十分の一であります。尤も七歳より十三歳までの小學兒童の入學歩合九〇・六%に比すると幼稚園入園者は四一%であるから僅少ではあるが、我が國などは遠く及ばない所であります。尤も都會に於ては五歳六歳兒が幼稚園に入園するものは四九%で、村落では三四・七%であります。この統計は古く一九二〇年のものでありますからその後幼稚園教育の發達に著しきものがあり、且つ公立のものゝみで私立を含まないから實際に於ては餘程幼稚園教育を受けるものが多いものと思はねばなりません。

二

ニユーヨーク市にあるコロンビヤ大學の教育大學の附屬學校が二つあります。その一がリンカーンスクールで、他の一がホーレスマンスクールであります。ホーレスマンスクールはブロードウェイ一百二十番通にあつて女兒のハイスクール、男女兒の小學校及び男女兒の幼稚園からなつてゐます。そして幼稚園長はバッティ・スミスヒル氏で、シャロット・ガノ・ガリソン女史が幼稚園主任であります。助手としての保姆が四人ゐます。この幼稚園はジュニアブライマリーとも稱し、精選せる教具や用具、更に工業

的な構成的また美術的の材料を施設した環境をつくりてあります。是等は唱歌、お話、競技等と共に児に教育的にして健康増進をはかる遊びや作業を課するやうになつてゐます。そして學校課業、美術、及び工藝に正しい出發點としての基礎を與へ、團體生活によつて社交性と共同の良習慣を養ふことを目的としてゐます。

この幼稚園は私立學校の一部であるから勿論保育料を徵收してゐます。そして一ヶ年の保育料は實に百七十五ドルで我が國の三百五十圓に相當いたします。一日三時間の保育で、年三百五十圓、一ヶ月三十圓の保育料は相當高價なものであります。尤もこの小學校の一年二年三年が一年二百五十ドル、四年が三百ドルで、五年六年が三百二十五ドルであります。また女兒のハイスクールではジュニアハイスクールの方が三百七十五ドルで、セニアハイスクールが四百ドルであります。凡て授業料は毎學年初に五分ノ三を支拂ひ、一月に残り五分ノ二を拂込むことになつてゐます。かく巨額の授業料を徵收しても尙ほ入學者の多いことは米國民の生活費が豊富なことを物語るものであります。我が内閣統計局が大正十四年の國勢調査による統表を推計の基礎として最近算定した我國の國民所得總額は百三十三億餘圓で、人口一人當り二百二十四圓となつた相であります。これを大正十三年中（比較表中我が國の所得は特に各國との比較に便する爲め大正十三年の所得に直したもの）に於ける各國の國民所得に比較して見ると次のやうであると申します。

國名

國民所得

百萬圓

人口一人當

四

一四二、五一八

一二七二

四五三、八三一

九七七

二四、九八七

三九八

二一、九〇七

五四九

一二、八八三

二一八

一〇、三五二

二六〇

四、五二六

七七一

米英獨逸佛蘭西日本伊太利濱洲

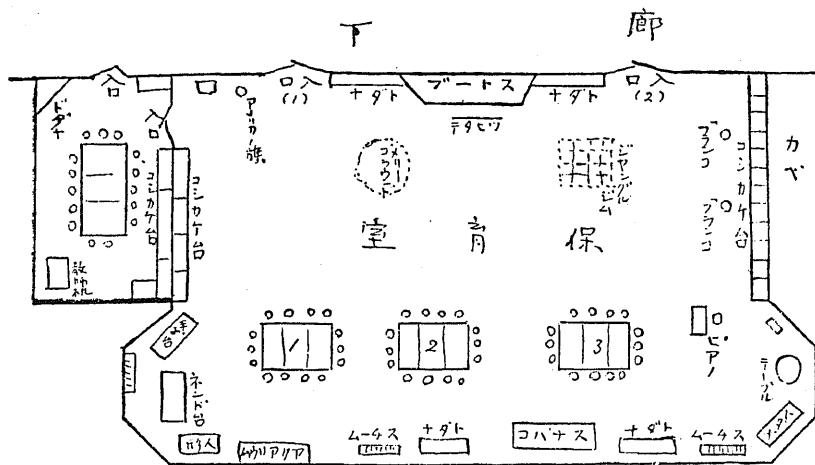
この表を見ると米國の國民所得總額は實に一千四百二十五億萬圓餘で我が國の十倍以上であります。

人口一人當りでは一千二百七十二圓で我が國の二百十八圓に對し、正に六倍の所得であります。これら考へると我が國の幼稚園保育料が月五圓とすれば米國第一の幼稚園が月額三十圓の保育料を徵收してゐても決して法外に高い譯ではありません。東京女子高等師範學校附屬幼稚園の保育料が月三圓に比べては私立學校の幼稚園たるホーレスマンスクールでは多少高率になるのは無理もありますまい。兎に角米國では我が國と比較にならない位高い保育料をとつてゐるやうであります。それは國民生活が富裕なるが爲めであります。そして保育料が高いから保育がよくて、我が國幼稚園では保育が低いから、安か

らう悪るからうて保育も悪いやうに考へるのは必ずしも妥當ではありません。

三

先づホーレスマンスクール幼稚園の保育室の略圖を示しませうか。この幼稚園は教育大學の本館について一階南側の日當りのよい室、あります。保育室と遊戯室とを兼ねた廣い一室で、隣が小さな一室で保母室になつてゐます。又廊下を距てゝ携帶品置場、便所、手洗場があります。この幼稚園に續いて小學校の一年教室が二個あります、保育室は廣いから入口が二ヶ所あります。(1)右の入口を入れると右側にアメリカの國旗がありその横に鐵の棒があり隣室に入るドアがあります。隣室は保母用の机腰掛がありますが、また材料を置く所にもなつてゐます。時には十人位の幼兒を隔離して取扱ふことも出来るのでせう。保育室の右側にある腰掛臺は取付けたもので、中が木の材料を入れる箱になつてゐます。こゝに多くの大小の木片があつて、幼兒が手工をする材料を提供するやうになつてゐます。上の蓋をすると直に腰掛になりますから附添の人や參觀人が腰掛けられます、また晝寝するときの毛布などを置く臺になります。次に手工臺があつて壁の腰板の所に鋸金槌や掃除用具をかけてあります。またその機に粘土臺があります。此處は窓になつて外を眺めることが出来ますが、腰掛臺の所は全く壁となつてゐて額が三枚かゝげてあります。アクリウムのある所は日光が射入する窓になつてゐますから外の大學生がよく見えます。この通りはニューヨーク市の許可で學校が自由に運動場として使用することが出来る



やうになつてゐます。學校が立札を出すと自動車は通ることが出来ないのです。そして學校の兒童が運動を安全に出来る工夫になつてゐます。これは單にコロンビヤ大學に限つたことはなく、ニューヨークの學校はストレートに臨んでゐて、その通りを學校が必要に應じて運動場として使用出来るのです。この運動場として使用者となるときには小使が市の許可の立札を出せば自働車は通ることが出来なくなります。運動がすんで學校内に生徒が入ると直に小使が立札をしまひ込むといった譯になります。所謂學校通りは學校が生徒昇降時にこの立札を出して安全をはかり、運動させるに便宜な制度となつてゐます。

アクアリウムには金魚などが静かに冬眠状態にゐます。その隣に人形臺があります。いろいろの人形が並んでゐます。更に戸棚があつて食事時の用具が陳列してあ

り、室内砂箱があります。この砂箱は左程大きなものではありませんが幼児の遊びの中心となり、いろいろのものをつくつてゐます。更に壁に沿ふて保育室をまはると幼児の讀物を入れた戸棚があります。中にはいろいろの繪本が入つてゐてその横に圓いテーブルがあります。こゝで幼児が繪本を見るやうになつてゐます。こゝは冬の日でも日光の射入する暖い氣持のよい所であります。更に左の入口(2)に近づくと腰掛臺があり、この上にのぼると丁度幼児が繪を書くによい壁黒板があります。幅は狭いが長いので多くの幼児が一齊に繪を書くことが出来ませう。この腰掛臺の前にブランコが二つもあります。室内ブランコは一寸我が國の幼稚園では見かけないものであります。保育室入口(2)の左側の壁には幼児の成績品が掲げてあり、右側には戸棚があつて玩具などが入つてゐます。戸棚の上には樂隊の道具が一通りのせてあります。續いてストーブがあつて保育室の中心裝飾となつてゐますが、ストーブの前の衝立には日本の畫が張つてあります。入口の上には圓い電氣時計が二個あつて時を示してゐます。この保育室の廣場にはメリーゴーランドがあり、鐵製のジャングルズム(私はこれをわくのぼりと命名致しました)があります。それで遊戯室であることは勿論であります。更に三脚の机を組合せたものが三ヶ所あります。その周圍に十三四人位腰掛けることが出来ます。三人の保姆が年齢の異なる三組の幼児を保育する室にもなつてゐます。一人の保姆が十四五人を一團として取扱ふのであります。兎に角保育室であり遊戯室であり一切の幼稚園作業をなすやうに出来てゐることは我が國の幼稚園と大に異なる所であります。

う。また三組の幼児が一室に保育せられることも注目すべき點でありませう。尤も我が國の幼稚園の如く一組の幼児の數が多いのではないでありますし、獨立した組を集合させてゐるのではありません。四十人位の一組を一人の保母が受持つのではなく、二人の助手保母を使つて保育するといつたものであります。主任保母の指揮の下に三人が共同して保育してゐるのであります。隣室は小さな保育室になつてゐて十人位の幼児が入ることが出来ますが身長計があり臺秤が備付けてあります。また教師机があり本を載せた三角戸棚もあり、材料入を兼ねた腰掛臺もあります。別に時計が入口の上にあつて獨立して保育するに不自由がないやうになつてゐます。

このホーレスマシスクール幼稚園の日課表ともいふべきものを示すと次の如くであります。

八、四五——一〇、三〇 各自の作業

一〇、〇——一〇、三〇 わ話、唱歌

一〇、三〇——一一、〇 ランチ。（各自携帶して來たものまたは幼稚園で定つてスクールランチルームよりとりよせたもの。）

一一、〇——一一、一〇 休憩

一一、一〇——一一、三〇 盥洗ひ、わ話 靴のはさかへ

一一、三〇——一二、〇 戸外遊び、遠足等

四

一四

さて私は一月十二日この幼稚園を參觀すると保育室には幼兒が既に登園してゐます。附添人も二三人入つてゐます。幼兒の中には粘土細工をするもの、砂遊びをなすもの、また積木で汽車遊びをなすものまたブランコをなすもの、ジャングルジムに上つてゐるもの等があります。何れも自由作業でありますが、別にヘル氏の積木で家が出来てゐますし、汽車の軌道が來てゐます、更にメリーゴランドで遊んでゐるものもあります。尙ほ粘土にラツクを塗るもの、人形遊びをなすもの、四角の細い木を鋸で切るもの、釘打をなすもの、人形の寝臺にラツクを塗るもの等がります。多くの幼兒は上被を着てゐるし、保姆も上被を着てゐます。偶然かも知れないが、主任保姆は赤の模様あるものを着てゐます。他の保姆は青の模様なるもの、茶の無地、綠の無地、朱の無地とそれゝ上被を着てゐます。

九時五十分ピアノの合圖があると自由作業をしてゐた幼兒が凡て直立いたしました。そこで主任保姆が命令を下したので、幼兒は皆片付をしてテーブルの所に集まつたのであります。尤も當番の幼兒があらませう、木工などをしてゐた所を掃除するものがあります。甚だ下手でありますが掃いてゐます。すると小使が牛乳に麥稈、ビスケットを運んで來ましたが白い上被を着てゐるのはさすが西洋式で清楚の感がいたします。一ノ組は九人で本を讀んでかせてゐます。二ノ組は十二人で簡単なお話の後テーブルに歸り廊下に出て行きました。勿論保姆引率のもとに出で行きました。これは携帶品置場に行き手を洗

ひ果物などをもつて歸つて來ました。三ノ組は十一人で、矢張りお話でありますがそれがすんでテ・ブルに歸つたとき一幼兒が拍手したので保姆は一ノ組の邪魔になると注意しました。社會生活をなすこと慣れさせる小さなことにも注意する保姆の態度は感心なものであります。幼少の頃から他人に迷惑をかけぬやうに訓練することは公徳心養成の第一歩であり、社會共同の生活をなすには實に肝要なことであります。暫くして一ノ組では當番の幼兒が皿を戸棚から出して紙を下にして一人々々に渡してゐます。所謂テ・ブルの用意であります。そして小使の持つて來て置いた牛乳とビスケットを各自取りに行きテ・ブルに歸り食事の用意をいたします。二ノ組では保姆が簡単にアイスクリームをつくつて幼兒に分配いたします。中には林檎を皮のまゝ食つてゐるものがあります。切るだけは保姆に切つて貰つたのであります。林檎を皮のまゝ食するのが普通であります。どの組も祈をした後簡単にランチをとるのであります。このランチをとることは幼兒にとつては楽しいことであり、幼稚園では重要な一の保育事項となつてゐる譯であります。

幼兒がランチをとつてゐる間に小使は各幼兒の敷物を持つて來ます。ランチが終ると幼兒は各自の敷物をとつて勝手なところに行き床上にしき、その上に横になります。すると保姆はカーテンを下して室内を薄暗くいたしますがこの時は十時二十分であります。その前に當番の幼兒は急いでテ・ブルを片付けました。そして十時三十分より十時五十分まで静肅にさせたのであります。この間一人もしやべる

ものはありません。ちょっとさゝやくものがあると保姆はシットといつて注意いたします。尤もあちらを向きこちらを向きしてゐるもの、また足を動かしてゐるものがありますが、十五分で全く動かなくなつたものが一人あります。多分眠つたものであります。この休息は眠らせるのが本體ではなく静肅に休息するのが目的であります。冬の日、床上に薄い絨氈を一枚敷きその上で休息するのであるから一寸考へると寒くもあらう、堅くもあらう、痛くもあらう、また風邪にかゝりはせぬかと思はれる位であります。一は鍛練を兼ねて居り一は室内温度が適當に保たれてゐますから風を引く心配もなく幼児も慣れてゐますから平氣であります。十時五十分まで保姆も腰掛けで全く静肅に休息してゐますが、時間が來ると保姆が窓掛を上げて室内を明くいたしますから幼児は起きて各組のテーブルに歸ります。勿論各日の敷物は一定の所に幼児が積重ねますから小便が來て運び去ります。今日はジャングルジムを中心とした寫眞をとるので日課を變更いたしました。多分新らしく購入したものであるから雑誌にでも掲載するのでせう。

五

一月十三日 再びホーレスマンスクールの幼稚園を參觀いたしました。朝九時頃保育室に入ると幼児が五六人主任の保姆とアイスクリームをつくつてゐます。また五六人の幼児が人形遊び、ブランコを遊んでゐるもの四人、粘土細工をしてゐるもの四人、汽車遊びをするもの三人、砂箱で遊んでゐるもの三

人、ジャングルチムに乗つてゐるもの二人、鋸で木片を切つてゐるもの一人、後に増加して五六人となりました。

幼児に木工を課してゐるのはこの幼稚園の一特色で所謂工業的な構成的な作業として課してゐるものであります。或る幼児は簡単な織物枠をつくつてゐますし或るものは飛行機或る幼児は腰掛、額縁、編物枠、人形の寝臺等をつくるといふ有様です。それも決して保母から強ひるのでありません。保母のつくつたモデルを置いてあるのを幼児が見付け自分も作つて見やうとするときに勝手に材料を興へ幼児自身をして計畫させ實行させるもので成るべく保母は教へないし手傳ひもしないのであります。一生懸命釘を打つてゐます、どんなに打てばよくなるかはいろいろ試行して體得し得ることを保母はよく領解してゐると見えます。釘を打つことによつて幼児は全精神を釘一本に集中する所に教育的價値を認めてゐますから決して保母が打つてやるといふことを致しません。幼児が打てば拙くなることは分りきつてゐますが幼児自身に行はせる所に價値を認めてゐます。時には指を打つこともありますがそんなことに恐を抱くやうでは教育的價値の大なる作業を課することが出来ないと認めてゐるのです。金槌の使用のみでなく鋸の使用でも鏽紙の使用でも成るべく幼児の工夫に待つやうに指導してゐます。九時三十分に幼児の一人がピアノで合圖をいたしましたが保母は更に自由作業をつゞけることを簡単に命令いたしました。それから九時五十分に再びピアノの合圖があつたときには幼児は相變らず直立いたしま

したが保母の合図でそれ／＼片付をしてテーブルの所に集まりました。當番の幼兒は片付を十分にし手工をしてゐた所を掃きました。腰掛を持つて集まつた幼兒は自然に三組となりました。第一ノ組では幼兒が十一人繪本を見てゐます。

The Farm book;

Story and Pictures by F. Boyd Smith.

第二ノ組では幼兒が十二人繪嘶をしてゐます、第三ノ組は九人でお話であります。その中に第一ノ組が廊下に出ました。ついて行つて見ると便所に行き手を洗つて紙で拭いてゐます。小使が一人に一枚づゝの紙を與へてゐます。手を洗つた後携帶品の所に行き果物などを持つて保育室に入ります。三組交替で食前に手洗所に行きました。

全體の幼兒が三ヶ所のテーブルに集まつたときに簡単な祈りをしてランチをとりました。前日と同様であります。十時五十五分に前日同様幼兒は食後の休息に移りましたが、その中二三人は眞に疲れたる形で動かなくなりました。十一時五分静かに腰掛けてゐた主任保母がテーブルの所に行くと助手の保母は電燈をつけ窓掛を上げますし幼兒はそれ／＼テーブルに歸りました。この休息が終ると今度はピアノの所に集まり更に他の保育室に居た小さな組が來て參加し一組づゝピアノの合図でスキップなどしてとびまはりましたが我が國の幼稚園遊戲の如く手のこんだものでは決してありません、その中に大きな幼

児が歌をうたつて小さなものにきかせてゐましたがその何たるかは私にはよく分りませんでした。

十一時三十分 この唱歌及び遊戯が終つてテーブルの所に歸り第一ノ組は靴のはさかへをなし第二ノ組ではアイスクリヨムをビスケットに載せて幼児に與へました。第三ノ組ではビスケットをこまかくして與へました。幼児は運動しつゝまつてゐます。更に第一ノ組は切紙をなし第二ノ組は繪をかき第三ノ組は砂箱に行つて遊んでゐる中に十二時となりそれ／＼附添の人々に渡されて歸りました。この二日間の參觀で大體ボーレスマンスクール幼稚園の大要が分つたと思はれます。茲に注意すべきことはこの幼稚園では幼児が保育室に入ると直に保育が始まるので鈴を鳴してこれから保育が始まります」といつた形式が全くないことであります。既に立派な保育室があり保育材料が完備してゐるので幼児がこの室に入れば真に自由作業が出来るのであります。家庭に於て何時から保育が始まるといふ始も終りもないか如く幼稚園に於ても保育の始まりといふ鈴で合図する境界がないのであります、保所も亦幼児が二三人集まる頃から保育室に現はれて幼児の自由作業を監督し指導してゐるといつた有様であります。既に保育時間の始まりが明白でないから仕事から仕事に移るにも簡単な合図があるばかりで、鈴で第一时限の終りを告げ休憩時間が十分か十五分あつて更に保育時間が始まるといつた學校式のことは全くないのがこの幼稚園の一特色であります。特別な休憩時間を置かなくとも作業の變化にあつて児童の生活は適當に調節せられるのであります。只晝食後静肅に休息するだけであります。更にこの幼稚園では自由作業

の時間が甚だ多いことがあります。幼児の興味の赴く儘に幼児が作業し遊戯することが多いのが一特色であります。何れ保母の方に計畫がありませうがそれを正面から要求せず幼児の模倣本能を利用しいろ／＼と工夫し構成させることを重視してゐることも注目すべきであります。その他いろいろ面白い點もありますがそれは讀者の御想像に任せることにして他の幼稚園の參觀に移ります。

六

ニユーヨーク市の西十三番町一四四番にある保育學校を參觀したのが一月下旬、教育實驗所並に都市田園學校と並置せられてゐます。この兩者共にパンフレットが出版せられて居り山樹儀重氏が歐米革新教育の實際に於て參觀せられた所並にパンフレットに基いて詳細なる説明がしてあるのであります。私は山樹氏の著書を豫め讀んだことがあつたので手帳にこの保育學校名が記載してあつたところから突然紹介も手紙もなしに參觀したのであります。すると保育學校長ミスジョンソン氏が喜んで案内し更に山樹氏の著書を示されたのではてこの保育學校であつたのかと首肯したのであります。

この保育學校はマックミラン女史などが英國ロンドンで經營してゐるやうな保育學校などゝ異なるものであります。マックミラン女史の保育學校などは社會政策的なものであります。婦人が職業に從事するが爲めに幼児の保育が出來ないからそれを代つて行ふ保育學校我が國の託児所の精神をもつた社會的經濟政策から行はれるものであるがこの保育學校は全く教育的見地から出發し教育的研究の機會と材料と

を得るために一九一九年に創立せられたものであることは一九二四年出版の

A Nursery school Experiment by Harriet M. Johnson.

の序文に断つてゐる所であります。それで生後十五ヶ月から満三歳までの幼児を僅に十名集めて終日保育をしてゐるのであります。この保育學校に使用してゐる所は教育實驗所と同じ建物の三階と屋上とを使用してゐます。(1)遊戯室は幼児が床上で静かに遊ぶことが出来ると共に走つたりとんだりすることが十分に出来るだけの廣さと施設とをなしてあります。それで南向で床の面積が五百平方呎ザット十四坪位な室であります、一方は階段でバルコニーに續き他方は滑り台になつて他室に連つてゐます。この遊戯室は出来るだけ幼児の活動に適するやうに工夫して大人用の器物は成るべく取除いてあります。口繪はこの遊戯室の全景であります。注意して御覽になるとピアノがある位置で他是悉く幼児の遊び道具だけであります。(2)寝室は満三歳までの幼児のことでありますから午前に一回、午後に一回睡眠する必要があります。それで寝室は成るべく音のしない静かな幼児をそれ／＼隔離させて眠らせる工夫をしてあります。そして睡眠の質と量とを測定するに便宜をはかつて寝台を使ふことにしてあります。この寝台は各個に天幕があつて幼児をそれ／＼隔離して睡眠させることが出来ます。(3)台所は一人二人の幼児が食事するに適する廣さをもつてゐるもので此處で牛乳やクラッカーなどを與へるのであります。幼稚園の如く全體の幼児が一緒に行儀よく飲むのではなく思ひ思ひに來て飲むのであります。その飲み工合や

分量を特に保母が注意して記録するのであります。それでこの保育學校ではトレド・スチーム・クツカ一が燃料の經濟になるといふので特に使用してゐるといつて居ります。(4)化粧部屋。幼児が便所に入り手を洗ひ着物を着換へることは保育學校の日課の大部分をなすものであるから十分便宜に行はれるやうな設備が必要であります。これがドレッシングルームで大人の化粧部屋と大變異ることは勿論であります。殊に幼児の糞便の質や分量を研究するのでありますから特に便利に出来てゐる必要があります。また新しい着物と汚れたものとの取換のための袋とかタオルがそれ／＼區別して用意せられてゐます。(5)階段。保育學校では幼児が昇降する階段が是非必要でありますから特にその設備をしてあります。この保育學校ではバルコニーに出る所に階段があり屋上運動場に出る所にも段があり更に室内にすべり台があります。(6)屋外遊戯場。天候がよければ一日の大部分を屋外遊戯場が必要であります。それで、この保育學校には屋上の運動場があります。これは雨雪の後乾くに早く空氣が新鮮で騒音が來ないから至極恰當であります。それでこの屋上運動場は十七呎に十八呎の所が、八呎の厚さに玉砂利が敷詰めてあり、その他はタイル張になつてゐます。中央に明り窓がありその周圍に板を張つた腰掛がありいろいろに使はれてゐます。一隅に一坪程の砂場があります。この屋上運動場は周圍に高さ三呎以上の壁がありますがそこに有合せの箱を積重ね、それを踏台として周圍の壁に登り幾十呎下の道行く人を眺めることが出来るやうになつてゐます。この運動場には厚い長い板があつてシ

「ソ」となるし、梯子があつて壁に登ることが出来、又ブランコがあります、相當な冒險をなさせる設備が十分に出来てゐます。明り窓の上には鐵網が張つてあつて満三歳にならぬ幼児が漸く匍上りお山の大將をきめ込むことが出来るやうになつてゐます。誠に思ひきつた設備であります。絶えず保姆が監督して幼児に力一杯の冒險をさせているのでありますから危険がありません。玉砂利もわざ／＼敷詰めたもので我が國ならば、どうしてそんな危険な設備をなすか、ヨチ／＼漸く歩む幼児を玉砂利の上に出すとは以ての外と攻撃せられませうが、この保育學校では特に設備してゐることは大に考へねばなりません。危い／＼で走ることもとぶことも禁止するときは何時までたつても冒險の精神も涵養出来ず、眞の幼児生活をさせることが出来ないといふのが、この保育學校の特殊な考へであります。

幼兒期の情意教育に就て (三)

大塚喜一

結語

幼兒期の意育に就て、小生がこれ迄見聞せるものゝ中最も適切と思はるゝのは、我が國幼兒教育界の權威者倉橋先生の「幼兒教育原論」の講習中の一節である。本講に於て先生は、幼兒教育の主標的として

目的性 没頭性 共感性 衆を樂しむ心 高めらるゝ心

の五項を擧げられ、更に是等に到達する爲め、幼兒保育法の原則として

具體 相互 共鳴 機会捕捉 の四原則

を擧げてゐられる。其中、幼兒の具體的生活を保育して其目的性没頭性を涵養する事は、早教育の要所を指示すると共に其弊を注告せるの觀があり、早教育に關する種々の學說や實際を批判するに善き標準を示されたりと感謝する次第である。依て以下此方面に就て其主旨の大要を述べて本文を結ばふと思ふ。

凡そ幼兒は一般にたやすく物に興味を感じ又熱中する。しかも彼等は、自己の活動を爲し遂ぐる事を直接目的として之に没頭し、大人の如く結果を願はうとしない。幼兒の生活はたとひ禁ぜられても、又損でも、して見たい、したくてたまらぬ、せずには居れぬといふ衝動や欲求に依て動いてゐる。

在來自發活動を尊重する論者は、幼兒の生活の出發點が自發的なる事にのみ着眼し之を過重視せる弊として、餘りに幼兒の生活を奔放不羈ならしめた嫌があつた。然し幼兒の生活は短いながらにも或る到達點を有するものである。自發活動、眞相は、出發點が自發的なるのみならず到達點をも自發的に意識して之に達せんと努めてゐる所に存する。幼兒期に於て、一度自發的に企てた目的はあくまでも到達せずば止まぬとい、性質を保育する事は、將來の意育の大切なる萌芽であり基礎である。

次に、生活の出發點より目的に到達する迄の過程に着眼する時は、幼兒教育の主標的として「沒頭性」（又は眞劍・熱心）が擧げられる。其意は生活の總ての瞬間に於て當面の事に没頭する事である。これは人間生活上極めて大切な態度であるが、大人は容易に斯く爲り得ない。そは何故であるかを裏から考へて見ると大體次の二つの理由によると思はれる。

一、生活を手段として間接目的の爲にするからである。従つて結果を願ひ、之を意識する事に依て自己を鞭撻しつゝ漸く進むといふ状態となる。

しかし子供の生活は決して左様なものではない。例へば子供が「蟬を取らう」と企てた時は、初めは

其目的を意識して出發したのであるが、愈々網を持つて樹々の間をかき分けて蟬の聲のする方へくど行く時には、蟬を取るといふ結果よりも、それに至る過程を爲せる一々の活動の單位或は要素を樂んでゐるのである。更に切言すれば、その過程に子供の力量相應の困難や障害のある方が却て之に打ち勝つ愉快さを覺えしめて、遊びの興味は一段と増すともへ思はれるのである。

註 Adolf Beil, — The School in the Home 2nd Edition chap. VIII. Training of the Will

P. 165 より

「人間の能力を左右する分明にして顯著なる力は堅忍の力に若くものはない。人生に於て何か偉業を爲し、又は其性格に於て其慧智に於て、普通人より優れたる人々を通觀するに、概括的に云へば斯かる人々は如何にして堅忍すべきかを知つてゐる。即ち只彼等の意志力が發達して、能く其心に保持せる事物を終極の成功に迄持來するを得るのである。然るに其他の多くの人々は智識の不足せるよりも寧ろ意志力の不足せるを以て失敗するのである。」

二、自意識の分離

大人が自己の生活に没頭し得ざる第二の理由は、「生活する我」と「之を客観的に見る我」とが自己の心の中で分離する事である。自己の意識に訴へて反省する事は青年期以後の教育に於て爲すべき事で、つて、幼児期に爲すべき事ではない。

全自我を沒頭して一生懸命に砂遊びを爲せる一團の幼兒達を見よ！ 感ずべくして云ふべからざる或る大なる力が此の幼兒達を動かして各自の生活に沒頭せしめ、且今や芽生えつゝある相互生活を進展せしめて居る如く思はれる。幼兒達は全く我を忘れて其本來の面目なる「神性」のまゝに動いてゐる。一度この光景に接して畏敬の念を起せる者は、決して無用にこの天使達の遊びを妨害せないであらう。子供に馴れ親みて共に遊ぶ者は、子供の生活に斯くも尊敬すべき方面あるを思ひ、自己の氣分に任せて有害無益に干渉する事を深く慎まねばならぬ。

「自己に忠實なれ」とは「自己の爲めに選みたる目的に沒頭せよ」との意である。大人は理智に依て自己の目的を選む事は出来るが、扱て愈々之に沒頭せんとしても幼兒の如く無我に爲り得ず、絶えず之を自意識する心が出て来て、或は現在の勞苦を嫌ひ、或は一の努力を以て十の結果を願ひまするに至るものである。

沒頭すべき價値あるものに接したからとて直ちに沒頭し得るものではない。「沒頭せざらんと欲するも能はず」てふ性格の習慣である。それだから基本教育たる幼兒期に於て此性格の習慣を養ふて置かねばならぬのである。成長した後に始めて氣付いてもかかる性格を獲得せんとするは極めて困難である。社會の荒浪を乗り切つて自己の意志を貫徹する力は、實に幼兒の長所たる沒頭性の保護と鍛練とに依て養はれるものである。

註、かゝる考へに就て豫想せらるゝ反對説は、左様に幼兒期に自己の好む所にのみ沒頭する様習慣付けられたる者は、成長の後周圍の事情も他人の注告をも顧ずして自己の好む所にのみ熱中する如き性格を作りはしないかと云ふ事である。しかしかゝる愛は「一時期の生活を完成する事が即ち次の時期の生活へ進展する素地である。」との原理に思ひ至らば自ら解決するであらう。子供が其時期に特有する遊び——即ち生活——に眞剣に沒頭する様を大人の世界に於て比較を求むるならば、自己の本務に獻身的に孜々營々として勉むる人に比すべきであつて、決して自我の逸樂に耽溺する状に比すべきではない。幼時に沒頭性を教養されたる人は、意識的に或る職務・事業等に努力し始めてから、遂に之を沒頭して最も自己の好む趣味と同様に之を愛好する迄に至る間に要する時は、沒頭性を養はれざる人よりは遙に短いであらう。

扱て、斯かる沒頭性を教養するに際して準據すべき規範として、幼兒教育法の原則中最も大切な「⁽¹⁾⁽²⁾⁽³⁾⁽⁴⁾具體の原則」に就て述べやう。

元來、幼兒の生活は未分化的融合的なるものである。此事は年齢が幼い程著しい。此自然に副はんが爲めには、幼兒教育の方法は具體的であらねばならぬ。

教育は盡く徹底を求むるが、これが爲めに抽象的方法に依らねばならぬと考ふるに至らば、幼兒教育に於ても或る選み出されたる特定の効果を收めむとする爲め、其點にのみ力を注ぐ結果、生活全體の渾

成を破る危険がある。

部分的に一能力一作業の徹底は表はれなくても止むを得ぬが、具體的徹底を期すべく努力すべきである。こゝに幼児教育獨特の難しい所がある。

今、茲に云ふ「具體的方法」を明かならしめんが爲め、教育の方法を具體的ならしめないものは何か？と裏から考へて見ると、大體次の三つが考へられる。(詳細を略す)

一、被教育特殊意識 (幼児をして「今教育されてゐる」と明に意識せしむる様ならば「具體」を損ぶ)

二、生活の法則化

三、生活の概念化

この三項は昔から教育の必要條件の如くに、之を與へるのが教育であるかの如くに考へられてゐた。成程教へんが爲め、形式を與へんが爲めには斯くする事が便利であらうが、是等は何れも幼児の具體生活を損ふものである。

凡そ、或る時期に於て教育されつゝある環境或は状態と、その時期の教育を卒へたる後の生活相とは明かに區別すべきである。「具體」の眞意は生活の意義・目的・輪廓等を離れて生活の實質そのものに没頭する事であるが、幼児期に於て斯かる没頭性即ち生活の力強さが充分に鍛はれて置けば、年長じて後被教育意識を起させる如き、又は生活を法則化し概念化する如き形式を與へられても、一度その没頭性を

發揮し来る時は渾然たる三昧の境に入る事を得る。是實に偉人や天才の面影ではないか。
斯くして幼児保育法の原則を遵守する事に依り、其後の生活を圓満ならしめ、種々の具體案的教育も
其弊を受くる事無くして之を生活に融合せしめ得るであらう。

幼稚園懐舊談話會

来る十一月廿九日 東京女子高等師範學校記念日をトシ 幼稚園懐舊談話會 を同日
午後一時 より附屬幼稚園遊戯室に於て開會いたします。當日は我が國幼稚園創立當時の保
姆でありました豊田英雄子先生、更に小西信八先生、氏原銀子先生、膳眞規子先生、下田田鶴
子先生等の方々に御出席を御願して、それより當時の幼稚園懐舊談をして頂く豫定であります。
聽講は無料でありますから多數御誘ひ御出席下さることを希望いたします。

昭和三年十月三十日

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

主 催 者
日本幼稚園協會

我國最初の保母豊田英雄女史をお訪ねして

倉 橋 物 三

一
豊田^{ヒュウガ}英雄女史

の名は、我國最初の保母として、日本幼稚園史の第一頁に特筆されてゐるところである。本年八月、豫ねての宿望を達して、水戸市田見小路の寓に女史をお訪ねすることの出来たのは、至上の欣快とせざるを得ない。特に今年正に八十四歳の高齢であるに拘はらず、尙ほ饗饌として、現に愛國婦人會支部副會長の活動をつゝけられてゐる御健康は、諸君と共に、先づ第一の喜びとするところである。お若い方でないから、容貌のお噂をしてもお許し頂けると思ふが、堂々たる體格、端正なる風姿、實に古の武家女丈夫の典型

たるを思はしめる。殊に水戸の偉傑藤田東湖を叔父とせらるゝところから、其の風貌のうちに、肖像で知る此の偉傑の豪邁なる面影を偲ばしむるものがあつた。お茶の水で教へを受けた人々から、まことにお美しい方であつたといふ話を聞いてゐたが、今日も、僅に右眼の視力が衰へたといつてゐられるだけで、とても、お年齢とは思へないお氣力である。

二

女史は、弘化二年乙未十月二十一日、水戸藩士桑原治兵衛信毅氏の五女として、水戸に生れた。母ゆき氏は、藤田東湖の妹に當る。豊田氏に嫁し

夫君が維新の志士として、刺客の難に遇ふや、後、家塾を開いて女子の爲に讀書、手習を教授し、明治六年學制の發布と共に、發櫻女學校の創設に參し、その教師となつた。實に、女子教育の大先驅者といふべきである。明治八年、當時の東京女子師範學校（現東京女子高等師範學校）攝理中村正直氏の見るところとなり同校讀書教員（當時は各學科名を附してゐた）となつた。翌明治九年、附屬幼稚園の創設と共に、保姆を命ぜられ、こゝに始めて我國幼稚園教育の第一日を開始されたのである。當時中村攝理自ら幼稚園に深き興味を有し

育の實際に於ては、一切がすべて新らしい試みであり、假令、松野クラ、女史によつてフレーベル保育法の熱心なる指導があつたにしても、保姆としての日々の實際は、今日では想像されない程心労の多い仕事であつたに相違ない。恩物、手技の材料は、外國の型によつて模することが出來得たとしても、最も材料に苦しむものは唱歌であつた。そこで、保姆諸君の手によつて一つ／＼新作されなければならなかつたが、假令ば、彼の「風車」「家鳩」の如きも豊田女史の作になつたものである。

三

明治十二年、時の鹿兒島縣令岩村通敏氏、教育のことに頗る熱心であつて、眞の教育の徹底は、法の研究をなし、續いては小西信八氏（我國幼稚園教育の發達に大貢獻ある人、前東京聾啞學校長）深甚の熱心を以て、幼稚園のことに當られ、創設精神の極めて激進たるものがあつたけれども、保

に對する貢獻は、お茶の水の發祥地に於てのみならず、遠く九州にまで及んだのである。鹿児島幼稚園の創設を完了して再び東京に歸任後は専ら附屬高等女學校の授業を擔任する事となり、女史自身と幼稚園との直接の關係はなくなつたが、それ迄に女史の教へを受けた若き人々こそが當時から後年へかけて、我國の幼稚園の發達の爲に大切な基礎を築き上げた大功勞者となつたのである。大阪幼稚園の先驅者氏原銀女史の如き其一人である。

女史は、其後藩公が伊太利公使たりし際、明治二十年より同二十四年まで、ローマに滯留したことがあり、又、水戸の縣立高等女學校に教鞭を執られたこともあつたが、今日は其光輝ある晩年を以て専ら社會的に活動してゐられるのである。

四

其日は、茨城縣女子師範學校の、大瀧、大河内君の東道によつて、彰考館に大日本史稿を看、偕樂園

の雨景を賞したる後、兩君と共に女史をお訪ねしたのであつたが、最懇切に迎へられ、茶菓の饗をうけつゝ長時間に亘つて、幼稚園創業史を、其人の口から伺ふことの出來たのは、幼稚園研究者たる余にとつて、一生忘れることの出來ない紀念の午後であつた。座敷に「依雲亭」と題する古色幽雅なる篇額があつた。筆勢頗る雄健、「甲子晚夏 藤信」とある。女史にお尋ねしたら、こともなげに小四郎ですといはれた。即ち藤田小四郎である。余は更めて、東湖の姪の前に居ることと思つたのである。翌日、女史はわざ／＼縣立女子師範學校に余を答訪せられたが、其日は丁度余の講習の最後の日であつたので、閉會に際し、野島校長より特に女史を講習會諸君に紹介し、惇厚なる敬意を表せられたことは、三日間の講習よりも、どの位意義深い生きた感銘を、若き教育者諸君に與へたことかと思ふ。



葡萄

さ
お
り

○

「青葡萄奴——」

イソップのお狐さんが、くやしまぎれに投げかけた一言、お狐さんはどんなに其の葡萄が恨めしかつたであらう。手の届かない葡萄は、さぞうまさうに熟してゐたであらう。まあるい玉の中に、おいしいお酒を満して、何十粒かくられた房が、幾房も幾房も下つてゐたであらう。葡萄の房をいたはるやうに、もみぢした葉が棚にお屋根を作つてゐたであらう。其の葉間を漏れて、秋の陽がちら／＼と躍つてゐたであらう。

通りかゝつたお狐さん、

「よう、うきばうな葡萄だ。」

「すてき／＼、こんなあつい日に、甘い葡萄のしるで喉をうるぼすなんて、めつぽう素敵だ。」

「一つ御馳走にならう。」

「ひの、ふの、みづ。」

飛上つたが届かない、も一度したがさはらない。三度目も駄目、四度目も失敗、躍り上り、跳上つて、汗だくの／＼息もきれ／＼。駄目とさまたつて、絶望のお狐さん、白い眼で葡萄をにらんで「すつば野郎！ 誰が食ふかい。」

私は葡萄が大好き、イソップの此の嘶も大好き

お狐さんも嫌ひぢやない。何だか私があのイソップのち狐さんの伯母さんであるやうな氣もする。

葡萄の樹の無い國に生れた私は、秋が來ても葡

萄の甘いしるを吸ふことは殆ど稀であつた。繪で

見たり、話に聞いたりして、葡萄の房をなつかし

がり、葡萄の味を戀しがつてゐた。

「甲斐へ行けば、拾錢で葡萄畠へ這入れて、食べ

たいだけ食べられるさうだ。」

から聞いた時から、私は甲斐へ行きたい、葡萄畠へ行きたい、食べて食べて腹一ぱい葡萄が食べて見たいと願つてゐた。イソップのち狐さんは葡萄畠へ行つただけでもしあはせ者だと思つてゐた。

た。

「我は葡萄の樹、汝等は其の枝なり。」

ユダヤのエス様がち弟子等におつしやつたと云ふ

此の言葉は、意味深長で私にはわからないうが、

御自分を葡萄の樹と言ひ、弟子を葡萄の枝といは

れるからには、ユダヤの國にはさぞ澤山葡萄があつたであらうと美しく感ぜられる。

さらば葡萄よ、

我が忘我の血液の内にて、

遅々勞苦する葡萄樹に在らんよりも。

(松浦一氏譯)

西洋の詩人が、「酒場にて」の詩にうたつた、此のワインの本場はフランス、秋毎にフランスの野や山は、かぐはしい葡萄の房で飾られるであらう遠い異國は夢にも見られぬ。せめて内地の甲斐まで行きたい。

○

葡萄を戀慕ふこと三十年、此處に恵の秋がめぐつて来て、私は甲斐の國へ葡萄を食べに行く機會を得た。甲斐の勝沼葡萄の名所、其の名所の一番名高い葡萄作りの、一番廣い葡萄畠へ、私は秋晴

の一日、自由に這入つて、自由に探つて、自由に食べて宜しいといふ許を得た。

一泊二日の旅、葡萄を食べんがための汽車の旅である。國境を越えて甲斐に入ると、風が葡萄の香を運んで来るやうな氣がする。窓からは富士の嶺が仰がれる。柿の實が玉をつらねて赤く輝いてゐる。甲斐はよい國である。

日の色に柿みのる國富士の國

甲斐は葡萄のうま酒の國

勝沼で下車、案内の人連れられて、彼の葡萄

畑へと行く田圃路に、見よ、甲斐の葡萄の食べ殻が紫の色に匂つてゐるではないか。捨てられた葡萄の皮さへ此のやうに美しい。路の右も左も葡萄畠である。時雨に染つた葉ぢ棚を覆つてゐるのが又美しい。

半時ばかりの後、私は數町歩にわたる葡萄棚の下に立つてゐた。數千萬房の熟しに熟した房が、

大空を遮つて、手の届く所に透間も無く下つてゐる。傍の臺の上には、今切取られた數十房が積まれてある。

「さ、召上つて。」

「御隨意にも採りになつて。」

あゝあとばかり驚異の眼を見張ると、私の喉は塞つてしまつた。聲も出ない。手も出ない。

「さあ〜、召上つて下さい。」

「お持歸りは願はれませんが、召上る分なら何百房でも。」

私は夢の國の人のやうであつた。私は何も彼も忘れてしまつた。唯々葡萄の美しさに醉ふばかりであつた。

紫の甲斐の葡萄はまるらかに

うす化粧して美しきかな

百千玉甲斐の葡萄はうま酒を

中に秘めたる寶玉にして

私は半日此の葡萄棚の下で酔つてゐた。さめた時には夕日うすづく甲斐の田圃路を、とぼ／＼と歩いてゐた。私の三十年のあこがれ、一生の望は達せられたのか、達せられなかつたのか、私は其の路で、インップのち狐さんに會つて話したかつた。

翌日歸りの汽車の窓から、再び富士を仰いだ。
網棚には土産の柿と、「一粒も召上りませんから、特別に差上げませう。」と言つて切つて呉れた、あの葡萄焼きつての長い三房とが乗せられてゐた。

お詫び

十月號は規定よりもずつと後れて二十日に發送致しましたので、お案じ下すつた事と思ひます。丁度十月號から印刷所を變更いたしましたため、手違ひを生じ申しわけ無くも大變におくらせてしまひました。相濟まなかつた次第でござります。(編輯係)

珠數玉の根まで晴れけり村安し

禪寺洞

秋の雲松を見上げて歩きけり

零餘子

アメリカの幼児教育を見て（一）

東京女高師 體操科教官 宮 田 覚 造

我國に於ける身體教育に就いて、頗る疑ひを以て過去數年間考慮させられた點は、幼稚園に於ける身體の教育であつた。眞に幼兒の身體及び精神の健全を希ふ點より考察して、はたして最良の方

ろ中等程度の學校にまで教養せねばならぬ材料でなければならぬ。

幼兒教育の實狀をつくゞ考ふる時にその中核となる教育の眞跡は身體教育でなければならぬ、素であるかと、自己自身の經驗から我が子を深く見つめたとき、幾多の疑ひを持たずにはられなかつた。運動遊戯、童謡遊戯、動作遊戯、身體方面から見て何を教育するか。體育か、美育か、情操教育か、藝術教育か、こんなやかましい教育が何故幼兒の教育にのみ必要とするのであるか。人間完成への教育として必要な材料であるならば、

今は身體養護の教育であつて、幼兒教育の主體は此點に存するでないかと考へられるのである。

今度短かい旅行であつたが米國の幼兒教育を見て、最も痛切に身體教育の實狀を肯かさせられた點は、廣義に言へば衛生教育の徹底である。むし

る衛生教育といふよりは健康教育といふことが多く用ひられる言葉であつて澤山の費用と人とを使つて児童の健康保全といふことに努めてゐることには驚いたのである。勿論私の着目するところは身體教育といふことが徹頭徹尾頭を離れない、専門的の観察を知らぬつもりであつたのであるが、各地の幼児の保護といふ點は至れり盡せりと申してよいほどである。最も衛生教育は幼児ばかりではない様で、小學校（グランマースクール）でもハイスクールでも次代の國民教育には身體の完全なる發達といふことを徹底的に知らしめるといふ傾向を見ぬくことが出來得る、一は國家の眞精神を植えつけんとする強度の要求であるかも知れぬけれども、米國民の身體に對する教育に注意される程の方面から見られるのである。

米國の各洲に目立つて見らるゝ點は各衛生局に學校看護及び學校醫の巡回視察と共に疾病患者に

對する手當である。食物の検査、及び供給の勵行や睡眠休養に對する調査と獎勵實施などは、私の想像以外であつて、各家庭との聯絡の如きは親切丁寧に取扱はれてゐる點は眞に身體教育の眞精神にふれてゐることを推賞せざるを得ないのである。一例を擧げて申せば、桑港に於ける日本の米國人の幼稚園であるが、毎週學校醫が巡視して幼兒の疾病状況を診察する。尤も學校醫は耳鼻とか内科とか言ふけれども皆専門の小兒科の醫者であつて健康診斷をなす。疾病を發見するとたゞちに園長（普通グランマースクールの校長）と相談して各家庭に通知して治療をすることになつてゐる。もし家庭が通知を受けて治療を施さぬときは、關係の治療を喜んで受ける慈善的の團體に依頼して治療をさせることになつてゐる。こうして疾病に對しては幼児の疾病といふことは發病以前に豫防もし治療の方法を講じて仕舞ふので、我國の發病

後の治療とは趣きを異にしてゐるのである。

食物については、最近幼兒の食物を學校で供給することが多くなつて來たと申してゐる。朝の食事を各家庭ですませて來ても學校で必ず食事をさせる、牛乳とか、焼パン、野菜及び肉のスープを與へる。殊に各家庭の幼兒の食事について取調べをする。好むもの、きらいのもの、食物の分量、種類を始めとして、食事に對する状況を詳細に聞きもし報告もさせるので、これらの材料に依つて學校醫と相談して適否を注意し獎勵もし指導もして行くので、手が届くと申してよい點が多い。

學校看護婦は疾病に對する學校が實施實行する點を常に警戒指導すると共に、食事に對する分量及び状況を注意してゐるので、仲々勤務も骨が折れる様子に伺はれるのである。

次に睡眠であるが、學校で睡眠をとらせることが、普通に實施されてゐる。布哇の小學校では、

普通教室の換氣をよくして新聞紙や、毛布などを敷いて三十分もしくは時に依つて一時間位午睡をさせてゐる、勿論氣候の關係や季節の關係で時間に長短はあるけれども必ず睡眠させることにしてゐる。シカゴ市の良い設備のある學校では寝臺を各人に用意し寝室まで美しく裝飾してゐるのも見學する事が出來た。兒童の活動の状況に依つて睡眠をとらせぬこともあると申されてゐたけれども習慣のつくまでは必ずピアノを彈くとか唱歌をやるとかして心地よく睡らせる事に苦心と努力をすると申してゐる。

身體教育に就きて幼兒の教育がこゝまで考究され実施されてゐることは我國の幼兒教育にとつて體育的考察をなすべき良範であることを信ずるのである。(次號)

断片

片

一 保 姆

か室の椅子に之等をねいで軽々と戸外に出て来て
よく走りよく跳ぶ。裸で走る様子のなんと氣持よ
さうな事！ かゞやく頬、のびた腕、スポーツ
の秋がこゝにも漲つてゐる。

私達は、かう言てゐる間も育ち行く小さい友達
の身體を布や紐で縛つたりくつたり土の人形と
同じに塗たり包だりしないようにお母様達と話し
合ひをしなければならない、そんな話しあひは、
とくにすんでしまつたところもある、まだすまな
いところもある。

の赤ちゃん。

がてりはえる。生命、發育といふ偉大な運動に突
き進んでゐる生命、生命ながらの姿、健康な裸
の赤ちゃん。

る。

それは私達の小さい友達の、つひ先頭の姿であ
る。

私達は現在、着物を着、靴下をはき又靴をはい
てゐる小さい友達を見る、けれど元氣な彼等はや
がて上着や靴や靴下がうるさくなつて来る、いつ

椽の下の瓦け鉢の中に、土だらけの茶色の皮や
肉厚な幾重もにかこまれた球根から、淡緑色の芽

が一二分頭を出したのを見た時、私達はヒヤシンスの色も姿も花も香もすべてを含んだ小さい芽の生命を、輝くばかりの生命の光を感じる。

やがて柔かい土の床に移された、若い生命は日光と水とに育まれ健やかにのびて行く。自然是、しめつけの紐やからみつく布片で若い生命の育つのをさまたげない。

大地の母の宏い、そして細い心づかひは若い生命をグングンのばし育てゝ行く。

健康な裸體の赤ちゃんのお母さんは根の芽より、もつと複雑な、もつと力ある、もつと深い赤ちゃんの生命を、どんなに伸ばし育てゝゐるか。

× × ×

近代の舞踊革命家と云はれるイサドラ、ダンカンは彼女の舞踊を波や雲、風、空とふ鳥、野を去る兎等自然の運動から學んだと云はれて居る、そして「ギリシャ人は自然の法則の研究者であつたか

ら偉大な藝術を生んだのである」といふ。彼女自らの弟子を導くのに、少しも自らの舞踊を模倣させることなく、各自の自由な運動を學び、弟子自身の踊を發見するよう助けて行たとの事である。昔のお師匠さんは、我が藝を我が生命と共に、弟子にうちこんだ、そこには生命の尊さがある。お師匠さんは生命がけて生み出し、生命がけてつたへてゐる。

夜店で買た紙人形の着物を翌朝持て行て、幼稚園の小さい友達に着せようとする、コレラ菌のよくな怖ろしい存在はないかしら。

私達の前にゐる多くの小さい友達、彼等の昨日の姿は「裸の赤ちゃん」である、その肉體も、心も、健かに、強く美しく、のびるよう育てるのが私達ではないか。私達は、彼等として育てなければならぬ、自分のまがつたり、ねぢれたりした着物又は借りて來た着物などを無理に着せて、

彼等の美しい腕を折たり、挫折したりしてはならぬ。

あの美しい植物の芽、球根の若芽を金槌で、打ちつぶす者があつたら、それは正常の人ではないと思はれよう。

私達は、私達の小さい友達に對して——勿體ないほど信頼されてゐる——正常の人でないような事を爲はせぬか。

一步あるくにも、躊躇はねる元氣な足を、をさせて細く弱くしてはゐないか、「野生の動物をせまい檻の中に久しく入れて置くと、野に生きてゐた時の猛々しさ、自然と調和する運動を失て、せまい檻の中で出來得る運動をするようになる」と云たダンカンの言葉はくりかへし讀んでると怖ろしくなる。

明日の日本を双肩に擔て立つべき、私達の小さい友達、彼等の足が、「せまい檻の中」に止められ

るような事があつたら、そして其の中で出來得る運動をするようになつたら、私達は其のあとを考へるさへ、怖ろしい。

肥えた土に豊かな收穫があり、よき礎の上に堅固な家が建てられる事は、あまり知れきつた事で忘られてゐるのであるまいか。

幼稚園は種を蒔くところである、現在花をさかせ實のらせるのではないが、美事な花や實を遠い將來に望みつゝ種を蒔くところである、といふことを聞いた。そして長い間さう思て來た、けれど近頃私は、幼稚園はそのも一步前のようと思ふ、よき種を蒔かれた時、成長し得るような、よき烟を耕すのが私達幼稚園での仕事のようと思へる、宏大な建築の基礎工事をするのが私達幼稚園の仕事ではないか、どんなよい種もふみ固められた土では育つことが出來ない。心してよく耕された烟にはよい芽が出る。復興の市街には長い時日と多

くの人を要する基礎工事を數多く見る。

小學校、それ以上に於てよき種をまかれた時、育ち得るような、よき耕地を作る事は最も根本の要事ではあるまいが、畑を柔く豊沃にする事、或は固くすることいづれもお母様達と私達の双肩にある。そして己に芽生えを發見した時私達は心して心して、芽の伸びんとする方向へよき成長を助けねばならぬ。それは或る形にはめるよう針金でため、楔で曲げるのでない。其の芽の伸びんとする傾向を細心に觀察して、其後にそれを助けるのである。

新花道の小林先生が「生けようとする草なり樹なりが野にある時、山にある時如何なる状態につたか、雜木林峯の孤松、叢り咲く秋の草花、谷間の一本百合、岩にはふそなれ、いづれもそれぞれの特長がある、まづそのそれ／＼の形を知り進では地下の發生春夏秋冬に變り行く發育狀態をも

究はめて、其の植物の特長を失はずに生ける事」以て生花の第二の原則と云はれる事は私達の大いに耳を傾けなくてはならない事と思ふ。

私の幼稚園は小學校の附屬であるが、かつて本校の音樂の先生が、「どうか幼稚園の子供達には、

小學唱歌は使はないで下さい」と申された、小學唱歌は使はないで下さい」と申された、小學唱歌は使はないで下さい」と申された、「知らないのを新しく教へる事はよいが、間違て覺えてゐるのをなほす程困難な事はない、なほされる者もなほす者も辛い、そこには非常に苦しい努力が要る」私はこの言葉を思ひ出して、荒地にぼう／＼とはえる荒地野ざくの事を思ふ、取ても／＼生える始末のわるい雜草である、野にある雜草はよい、けれど畑にはよき土が盛り立てぬなければならぬ。

柔い土の床、野菜畑の中に、まるくと肥た裸の赤ちゃんがニコ／＼して轉つてゐる繪を、どこかで見た事がある、其の邊が明るい光で輝いて小鳥の歌が音樂のように聞える。私は私の小さい友達の事を、ことにこうして離れて机の上で考へると、輝かしいあの繪が、現のようにまぼろしのよ

東京女子高等師範學校の秋季大運動會

明治神宮外苑競技場に於て

十月二十二日の朝、氣づかはれた前日來の雨がからりとをさまつて、青天高く、一點の雲も見られぬ快晴、嬉しくも恵まれた天候に先づ意氣はあがる。

八時三十分、運動會開始された。本校、附屬高女、附屬幼稚園の各部で、何れも運動慾を満足させ度いといふのである。フイールドで競技、或は體操がはじまると見るや、外のトラックでは五十米、百米、或は四百米と、走騒して居る。廣い競技場が、すき間も絶え間もなく使はれて行く。

やがて九時三十分、幼稚園の「旗拾ひ競走」見るよりも自ら運動して見ての運動會である幼兒達の声は來た。スタンド前のトランクを五十米、決勝線のま近くに渡された。

うに目のあたりに生きて來る。この壯健な赤ちゃんをギリシャのアポロの様にヴィナスのように強く美しく伸ばし育てるようにするのは、そして次代の日本を世界に輝すようにするのはお母様方！あなたと私達です。

（昭和三年十月）

正午すぎ、開院宮春仁王殿下妃直子殿下、北白川宮美年子女王殿下、北白川宮佐和子女王殿下、李王殿下妃子女王殿下、李德惠姫臺臨遊ばされ、一同の意氣を手にするとそこから、嬉しさうに横側に立つてゐられる先生に飛び付き来る。どけない幼兒が小さい方の組にはある。次いで、旗を一本づゝ拾ひ得てよろこび物は續いて、いよいよ高調せらるる。呼び物は續いて、いよいよ高調せらるる。プログラムは最後に近づき、本校、高女、小學校、帶を召された本校の先生方まで打ち交じられた「ゴザックダンス」となる。夕陽はせまつた。感激に入られやうな樂の音に合せて大集團は動く。しばし、場内聲もなく集團の威力が、莊重な氣に打たれる。斯くて感激のさ中に會は閉じられたのであつた。この日各殿の終まで御覽あらせられたことは、更に更にあつた。

（きく子）



狸が恩を返した話

金子彦二郎

これは桃太郎さんが鬼が島征伐をしたころのお話です。常陸の國の行方郡の片田舎の山陰に、人間の棲み家とも思はれないやうな粗末な草葺家を作つて住つてゐるのは、大したえらい坊さんといふのはあります。朝夕一心不亂にお經をあげたり念佛を唱へたりしてゐる年とつた一人の和尚さんであります。

もうそろ／＼腰も曲りかけたほどのお年にもかゝはらず、この和尚さんは寺男も置かず、自分の手一つで食事などもこしらへ、たゞ明けても暮れてもお念佛を唱へてゐるといふ人の善い方であります。だん／＼と近郷近在の人々も尊び敬つて、時々おいしい食べ物や、小ぎつぱりしたお衣などを寄進したり、又ひま／＼には破れた家根の修膳をしてやつたりして面倒を見てくれますので、和尚さんも大層喜んでゐました。

II

或る冬の、それは一時計の振子までが氷りついてしまふ位寒い晩のことでした。どこの誰か、聞き馴れない聲で、入口のところで、

「和尚さん！」

と呼びかける者がありました。滅多に人の尋ねて來たことのない此の山寺へ、殊にこの夜更けに、ハテ誰だらう？と思ひながら、手燭を持つて出て見ると、これは又珍しい、年とつた狸のアリ客様であります。

大がいの者なら、キヤツと言つてびつくり仰天するところですが、前々いふ通り人の善いさうして悟り澄ましてゐる和尚さんのことですから、にこ／＼笑ひながら、

「いや、これは珍しい、誰かと思つたら狸公アリコか。して又今頃何か急な用でもあつて來たか。」

と優しく尋ねてやりました。するともう頭の禿げかゝつたその古狸は、膝を屈め、ベコ／＼頭を二三度さげてお辭儀をして、

「はい／＼、御承知の通り、私は山や野原に住んでゐますので、雨風や霜雪などには馴れきつてゐる身でございますが、この通り——と言つて禿げた頭をツルリと撫で——年をとりましたら、どうも此の頃の夜寒にはとても我慢がしきれません。どうぞお願ひでござります、夜分だけあなたのお出で

の圍爐裏のそばにおいて下さい。」

と掌をすり／＼頼み込むのです。

和尚さんは相變らずにこ／＼笑ひながら、古狸の申出を聽いて居りましたが、やがて大きく一つうなづいて、

「あゝ、いとも／＼、それくらゐな頼みなら、何時でもきいてあげるよ。さあ／＼おはいり。」

と言つてやりました。狸はもう大よろこびで、「それでは御免を蒙ります。」と言つてついて入り、圍爐裏のそばにすわつて、丁度人間がするやうに手のひらを翳したり、月のよい晩に鼓代りに打つた大きなお腹をつき出して温めたりしてゐました。和尚さんは、例の如くお經を上げたり、お念佛を唱へたりしてゐましたが、四時間ばかり経つて、夜もほの／＼と明け初める頃になると、

「和尚さん、お蔭で助かりました。誠にどうも有りがたうございました。又寄せて戴きます。」

とお禮を言つて外へ出て行きました。

三

それからと言ふものは、狸公は毎晩のやうにやつて來ます。ある時なんかは、年とつた和尚さんの拾ひ集めた薪を焚かせるのがお氣の毒だといつて、自分も枯枝や乾いた落葉なんかを拾ひ集めて抱きかゝへて來たりしました。

人の善い和尚さんは又、かうして毎晩々々狸がやつて来るうちにすつかり馴染になつてしまつて、日が暮れると、もうそろゝ狸公の来る時分だが、今夜はどうしたか、少々來やうが遅いやうだぞ。」といふ風に、狸の來るのを待ち受けてゐるやうになりました。

こんな有様で寒い／＼冬も過ぎて、春三月にもなり、小さな子供たちがあ手々をつないで

春が來た

春が來た

どこに來た。

山に來た

里に來た

野にも來た。

といふ唱歌をうたふ頃になると、ふつゝり狸の姿は見えなくなりました。

四

いつも來る珍客の足がふつゝりと杜絶えましたので、和尚さんは、何となく物足りない心持ちであましだが、やがて暑い／＼夏が來、涼しい風の吹く秋も過ぎる頃には忘れるともなく狸公のことは忘れてゐました。

丁度去年狸公がやつて來た時から一年ばかり経つて、再び霜に雪に夜寒をかこつ冬が來たら、又例の狸公が毎晩のやうにやつて來ました。

かういふことが十度も繰返された或る年の或夜のことです。狸はごく神妙に和尚さんの前に手をついてお辭儀をしてから、こんなことを申しました。

「和尚さんのお情で、毎年々々あの凍え死ぬやうな寒さから救つて頂いて、かうして無事息災で長生きさせて頂いて、こんなに嬉しいことはありません。つきましては私の出來ます事で、何か一つ御恩返しを致したいと思ひます。どうぞ何か和尚さんに御望みのことでもございましたら、遠慮なく仰しやつて下さい。」

和尚さんは、例の如くにこゝして聴いて居られたが、

「御親切は有りがたいが、わしのやうな出家には、何といつて『これが欲しい』とか『かうなりたい』とかいふ望みなんか一つだつて半分、だつてありやしないよ。まあ、そんな心配や氣兼なんかせずに、このわしが生きてゐるうちは、毎年冬になつたらやつてくるがいゝよ。」と言つて笑つて居りました。

狸はこの慾のない和尚さんの心持にます／＼感心してゐましたが、併し、たゞ恩を受けてばかりゐては相濟まぬとでも思つてゐるんでせう、うるさく「何かお望みをいつて下さい」とせがみますので、和

和尚さんもいぢらしくなつて、或時こんなことを言ひました。

「いや、ほんとにわしのやうな慾も得もない年寄りの出家には、何一つ望つていつてないが、どうしても何か一つ言へと言ふなら言つて見てもいいが、——それはね、小判が三枚もあつたれよからうなア——と思つてゐることだよ。朝夕の身すぐしにも不自由はしないし、この儘往生しても、村の衆が葬式だけは營んでくれるであらうから、お金なんが一文だつて入用ではないが、もしも小判の三枚も手に入つたならば、有名なお寺へ寄進して、立派な御法事を營んで、間違なく極樂往生の出来るやうにしておきたいと思つてゐる。が——これも無理算段までして手に入れたいとも思はない。萬が一、手に入ることでもあつたら……と、あんまり、お前が親切に言つてくれるから、まあ一寸言つて見たまでも。ハツハツ……。」

すると、狸は何かしら打ちうなづいてゐたが、やがて又小首を傾けてとくと思案でもしてゐる様子。
和尚さん、「こりや厄介なことを言ひ出して、狸を苦しめることになつたわい。」と見て取つたので、もう一度念を押して

「これ／＼、今的小判の話ね、あんな物が欲しいなど／＼ふことは、出家の身の言ふべきことではないのだ。わしもどうしても手に入れたいなど／＼は思つてはゐないのだから、決してその爲に苦勞したりしてはならぬぞ。」

と言ひきかせました。

狸はすなほに合點々々して、和尚さんの氣持がよくのみこめたやうな舉動をしてゐましたが、不思議なことには、それからといふものは、ふつゝりと来なくなつてしまひました。

和尚さんは大層不思議に思つて、「ハテ、どうして狸公は來ないのだらう。あれほどに言つてゐながら三枚の小判がそろはないので、きまりが悪くて來られないのか。それとも小判を盗み出しに行つて、見つかつて打殺されでもしたのだらうか。何にしても、ひよんな事を言ひ出して、罪なことををしてしまつた。南無阿彌陀佛々々々々々。」と後悔しても、今更どうにもならない。殺されたものなら、せめてその魂が極樂往生の出来るやうに祈つてやらうと、狸の爲に又一層も經を熱心に上げてやつたりしてゐるうちに三年といふ月日が経つてしまひました。

五

ある夜のこと、門口で

「和尚さん／＼」

と呼ぶ聲がする。ハテな「狸にそつくりな聲だな」と思ひながら、すぐさま立出て戸を開けると、例の狸公でありました。

「やあ、狸公か、よくまあ無事でゐてくれたね。それはさうと一體全體この長い月日をどこでうろつ

いてゐたか。」

と訊ねられると、狸は、神妙な態度で内に入り、

「實は、いつぞやあ話の小判の三枚のことですが、他の用にも立てになるのなら、何十枚何百枚も、すぐ手に入れて来て差上げることが出来ますが、何しろ極樂往生のかなふやうにお寺へ御寄進なさらうといふ爲の小判と承つて見ると、まさか餘所の土藏あたりから盗み取つたりして、盗まれた人の怨でもかゝつてゐたのでは、極樂往生の爲のお役には相成らんと思ひまして、あれから佐渡が島へ渡り土や砂に交つてゐる小粒金や、人が選り残して捨てたものなどを拾ひ集め、新奇に作つて參りましたので、こんなに日數がかゝつたのです。さういふわけで此の金は決して汚はしいものではありませんから、安心して快くお納め下さい。」

かういつて三枚の小判を和尚さんの前に出しました。

見れば成程作つたばかりの新しい小判なので、和尚さんは押戴いて受取り、

「いやどうも、つまらないことを言ひ出して、お前にも飛んだ御苦勞をかけました。しかしながらお蔭でわしの長い間の望も叶つて、こんな嬉しいことはない。ありがたい〜。」

と言つてお禮を述べました。

狸も大層よろこんで、「これで私の志もどうやら届きました、こんな嬉しいことはございません。だが

この事はどうぞ世間へはお話しなさらないやうに願ひます。」と申しました。

が、和尚さんはかう言ひました。

「いや〜、折角ち前の申出だが、これだけは内密にはして置けないよ。だつて考へてごらんよ、こんな大金をこんな見すばらしい山寺に置いていたら、早速山賊などに奪ひ取られてしまふだらう。だから人に預けるか、取りあへずち寺へ寄進しなければならん。ところで、さうなるとわしのやうな貧乏な者には誠に不相應な大金のこととて、すぐさま人様から盗んで來たのでないかなど、疑はれるに違ひない。だからこの大金の出來た一伍一什は、正直に言はずにはおけないよ。たゞ併しあ前が迷惑なら世間へは『狸公は、それ以來どこへどうしたか、わしの所へはもう二度と姿を見せない。』とかう吹聴しておいたら、不都合もなからうぢやないか。さういふことにしておいて、お前はやはりこれまでのやうに寒くなつたらあたりに來るがいいよ。」

狸もこの道理のある言葉に納得して、それからも、この和尚さんの生きてゐられるうちは、毎年冬になるといつも此の山寺へあたりに來たといふことであります。

連續的作業を中心としての手技

及川ふみ

題目が少しうづかしそうですが何とつけたならよいか適當なものも見出されませんので、こんなことにしました。さて幼稚園の手技の種類も粘土、紙仕事、きびがら、つなぎもの、縫とり、大工仕事、などゝ數へあげれば數々あります。又只今私共の見つけ得ないよりよい手技も數多くかくれてゐる事でせうこれらの一々の手技を、されざれに保育の材料としてとりいれてその週その週に断片的にやつてゆくのも勿論一つの方法であり、又現在は多くはこの方法によつて行はれてゐるのではないのでせうか。入園後日も浅い幼児は、粘土をするにしても、生れてはじめて粘土をいちつて見るので、自分の思ふほどの大きさにちがる事さへも容易ではない。又鋏を使ふにしても今まで家庭ではあぶない／＼で手にさへ觸れたこともないのでから、薄い紙を切る事も意のまゝにならないのです。こんな時期にはある日の粘土はおだんごばかりに終る事もありません、又圓くまるめる事から少し進んで長くのばすことになる日もありませう。それからねばした細長いものをくる／＼渦巻にして遊ぶこともあります、こんな

にしてゐるうちに、ある日は電車をつくり出し、汽車をこしらへ、お人形をこしらへる様になつて来る。こんなにして幼児の製作の力が進んで來ると、今までの様に一つ／＼切れ／＼のものでは面白くない。ある時は八百屋遊びを中心には、ある時はおもちゃへ、ある時は動物園、植物園といふ様に一つのまとまつた目的に向つて製作する。今日の粘土は動物園の動物を造るのである。今日の紙仕事はあの猿の小屋を造るのである。動物園の樹をこしらへのである。一つ／＼がどれも動物園の何々になるのだといふ事になる。

一つの動物園をつくるのに、粘土製作は勿論、きりがみもあり、自由画あり、ぬりゑありといふ風に一つものをつくるにあたり、手技のあらゆるものをする事もあり、又粘土と他の一二に止る事もあり、又ある時は紙仕事にぬり畫ばかりにとどまる事もあります。

近い數年の方我がお茶の水の小學校でも、一二年低學年では同科教授法として作業中心の方法をとつておられる様であります。とにかくこの方は生徒が幼稚園時代よりもずっと發達した人たちでする事もすべて大げさで、深くうちこんだところまで出來て居る事と、私は大層うらやましく思つて居るのであります。

小學校のそれにくらべては誠にものたりないのではあります。こゝに私共の立場としては出來上つたものは、たわいないものにしろ幼児の興味をつぶけさせるのに保姆自身先づその仕事にやみがたい興

味をもつてやらねばならないのです。先生があれこれといかにも面白そうにしてゐるので、幼兒もつひつりこまれて渦巻の中にまきこまれるといふ様に、はじめのうちは保母の方から積極的體度に出るといふ事も許さるべき一つのみちゆきであります。

さて、これらの題材は、先づ四季の季節／＼を思ひ、又年中行事を思ひ浮べ、幼兒の家庭生活、社會生活、幼稚園生活にふれて最も手やすい材料を選ばねばなりません。

こんなにして手技をとり入れてゆけば、幼兒の製作の興味も深くなりて進むのは勿論でありますが、又他方においては、私共保母の方で手技の材料がなくてこまる思案に暮れるといふ事はなく、あれもこれもと手のまわらないほど材料がぎ／＼と幼兒と共に思ひうかぶことでせう。

私の只今受持つてゐる川の組は、この四月入園した小さい組です。来る二十二日明治神宮外苑運動場で、當校では附屬校園全部運動會をすることになつて、何となく運動氣分が漲つてゐます、一週間ばかり連續的に運動會を中心に行なった實際を紹介いたしませう。(口繪參照)

一、會場を飾る國旗つくり

直徑二寸五分の日の丸を一人あて四枚きる。

圓は鉛筆で形をとつておいたものをきる。多少凸凹になつてゐるものもあるが、大體上手に切れた。

模造紙の白いのにはる、會場の中心に竹を立てやつて見ると、八十枚旗がいるので、早く切れだ人に

は二枚位追加してきつてもらつた。

二、小旗つくり

旗拾ひの旗、應援の旗など。

色模造紙で一寸四分位に幼児にきらせて、ヒゴを旗竿にして、各自に糊ではらせた。一人の幼児が三拾本位もつくつた。少い人でも拾本位は造つた。

三、粘土で人造り。

簡単な人であるけれども幾つも幾つもこしらへた。ある幼児は、一人で競技する人も、観覧席からみてゐる人もこしらへた。

出来たての人々を、繩ひきをさせたり、マラソンに、ダンスに數種の競技に分けて手に手に旗をもたせた。

四、見物人をこしらへた。

實習科の人たちの手で、受付の小屋や、救護班も出来れば、立派な入口のアーチも出来た。
樂隊に合せて皆で遊戯をした。

五、其の組の人たちにくばる入場券を造る。

六、自由畫で運動會をかく。

十二月の幼児生活

東京府女師附屬幼稚園 ト 部 た み

十二月の主材

○學
藝 會

○十二月生れ誕生會

○十二月の町

(歳の市、賣出し、冬至、クリスマス、大晦日等)

○十二月の庭園其他

(吹雪、冬枯、冬木立、枯野、寒月、霜、つらゝ、霜どけ、氷、ダリヤの球根、其の他の移植、霜よけ、冬の花、果物、飼育動物等)

○十二月の家庭生活

(正月の仕度、餅搗き、冬休み、かるた、羽根つき、凧あげ、すご六、晴着の仕度、クリスマス等)

○玩具祭り

玩具祭りについては本誌第二十七卷第十一號に記したが、我が幼兒兒童に年の暮として楽しい集りである。クリスマス、忘年會、懇親會等を一つにした内容を持つた催しをせしめて、子供の生活になくてはならぬ玩具を中心として、それを最も教育的に扱ひ、尚玩具に對する幼兒らしい感謝の念、愛護の心持を養ふにあり、又之を機會としてその前後の生活が、保育過程として充分意義があり、又家庭と協力して幼兒の生活の内容を一層豊富ならしめるのである。

幼二、十二月主材

曜 週	一	二	三
自由遊び (羽根つき、焚火、スキップ かるた等) 赤手巾の話より狼ごっこを 盛んにす。 今日よりストラップ取附・使用	自由遊び (その注意) （手の毛）毛糸毛絨の話 遊戯唱歌（手話あそび） （練習） （親雀小雀）	自由遊び お話遊び（親雀小雀） 唱歌（新音） 明照幼稚園々兒來訪（共に 遊戯をなす） 食後アンデルゼン中の（十 二ヶ月のお客様）を読みき かす。 米国の子供さんに贈る繪を かく。	自由遊び お話遊び（親雀小雀） 唱歌（新音） 明照幼稚園々兒來訪（共に 遊戯をなす） 食後アンデルゼン中の（十 二ヶ月のお客様）を読みき かす。 米国の子供さんに贈る繪を かく。
自由遊び （米國への贈物の手技つづき 銀杏幼稚園からのお迎えをう れしきり貰ひ銀杏の葉の上にこ 落葉拾ひ、葉つなぎ、葉の 色調べ等、（銀杏の木） 唱歌、遊戯（夕日、其他）	自由遊び （羽根つき、焚火、スキップ かるた等） 赤手巾の話より狼ごっこを 盛んにす。 今日よりストラップ取附・使用	自由遊び お話遊び（親雀小雀） 唱歌（新音） 明照幼稚園々兒來訪（共に 遊戯をなす） 食後アンデルゼン中の（十 二ヶ月のお客様）を読みき かす。 米国の子供さんに贈る繪を かく。	自由遊び お話遊び（親雀小雀） 唱歌（新音） 明照幼稚園々兒來訪（共に 遊戯をなす） 食後アンデルゼン中の（十 二ヶ月のお客様）を読みき かす。 米国の子供さんに贈る繪を かく。
自由遊び （山あそび） 學藝會について印象深かつ たものゝ話（談話、手技） （ホール投げ、ジャンケン取 り、輪（り、リレー等） 墨の室にて蓄音器をきよま ごとお話遊び等をなす。	自由遊び （山あそび） 學藝會について印象深かつ たものゝ話（談話、手技） （ホール投げ、ジャンケン取 り、輪（り、リレー等） 墨の室にて蓄音器をきよま ごとお話遊び等をなす。	自由遊び （山あそび） 學藝會について印象深かつ たものゝ話（談話、手技） （ホール投げ、ジャンケン取 り、輪（り、リレー等） 墨の室にて蓄音器をきよま ごとお話遊び等をなす。	自由遊び （山あそび） 學藝會について印象深かつ たものゝ話（談話、手技） （ホール投げ、ジャンケン取 り、輪（り、リレー等） 墨の室にて蓄音器をきよま ごとお話遊び等をなす。
自由遊び （自作り） （家作り）を初めて本校門前往来を みる。そ 續いてその景をかくもの （家作り）を初むるあり（終 りまでつづく）	自由遊び （自作り） （家作り）を初めて本校門前往来を みる。そ 續いてその景をかくもの （家作り）を初むるあり（終 りまでつづく）	自由遊び （自作り） （家作り）を初めて本校門前往来を みる。そ 續いてその景をかくもの （家作り）を初むるあり（終 りまでつづく）	自由遊び （自作り） （家作り）を初めて本校門前往来を みる。そ 續いてその景をかくもの （家作り）を初むるあり（終 りまでつづく）
學藝會 お話あそび（親雀小雀）幼一 二、 唱歌及遊戲 （オモチャナマアチ、じや んけんほん、（幼一） お月様、蝶々（幼二） 樂隊	學藝會 お話あそび（親雀小雀）幼一 二、 唱歌及遊戲 （オモチャナマアチ、じや んけんほん、（幼一） お月様、蝶々（幼二） 樂隊	學藝會 お話あそび（親雀小雀）幼一 二、 唱歌及遊戲 （オモチャナマアチ、じや んけんほん、（幼一） お月様、蝶々（幼二） 樂隊	學藝會 お話あそび（親雀小雀）幼一 二、 唱歌及遊戲 （オモチャナマアチ、じや んけんほん、（幼一） お月様、蝶々（幼二） 樂隊
日曇生活發表 その繪 家作りつどき 出來上りし （家の他に自動車、樹、電車 人等順次に増す） 機を集めて町作りをはじむ 唱歌（お客様）其他遊戲練習	日曇生活發表 その繪 家作りつどき 出來上りし （家の他に自動車、樹、電車 人等順次に増す） 機を集めて町作りをはじむ 唱歌（お客様）其他遊戲練習	日曇生活發表 その繪 家作りつどき 出來上りし （家の他に自動車、樹、電車 人等順次に増す） 機を集めて町作りをはじむ 唱歌（お客様）其他遊戲練習	日曇生活發表 その繪 家作りつどき 出來上りし （家の他に自動車、樹、電車 人等順次に増す） 機を集めて町作りをはじむ 唱歌（お客様）其他遊戲練習
摸擬、贈物、講話、唱歌、遊戲 お話遊び、福引、寶さがし 自由遊び 保護者會	摸擬、贈物、講話、唱歌、遊戲 お話遊び、福引、寶さがし 自由遊び 保護者會	摸擬、贈物、講話、唱歌、遊戲 お話遊び、福引、寶さがし 自由遊び 保護者會	摸擬、贈物、講話、唱歌、遊戲 お話遊び、福引、寶さがし 自由遊び 保護者會
（玩具祭り 十二月生れ誕生會）	（玩具祭り 十二月生れ誕生會）	（玩具祭り 十二月生れ誕生會）	（玩具祭り 十二月生れ誕生會）

			自由遊び	自由遊び (家作りつどき)	自由あそび
			學藝會豫行演習 お話をあそび、唱歌遊戲・樂隊、其他の演技をみる	談話(トロヤの木馬) (つどいてその繪をかく、繪について話さしむ)	町の完成(幼一組にみせる) 贈物作りつどき
			散步 寄宿庭 (バラ、椿、山茶花、むかご洞、ばだい樹の枯葉等)	唱歌(キビガラの馬を作る) (キビガラの馬を作る)	唱歌(新年の歌をきかしむ) 遊戲(練習)
			自由あそび 學藝會當日の冠作り(手技) (雀頭、雀の巣、各自作る)	植物園 唱歌(お客様其他)遊戲練習 談話(瓜子姫子)	唱歌(新年の歌をきかしむ) 遊戲(練習)
			唱歌、遊戲 (夕日、汽車、リトルロビン、 ファインガーダンス、雀、雨 がふります等)	自由あそび 玩具祭り仕度 寫眞、玩具の陳列 説明を發表或は繪にかく 手技(お菓子入れ角香箱)	自由あそび 玩具祭り仕度 寫眞、玩具の陳列 説明を發表或は繪にかく 手技(お菓子入れ角香箱)
			自由あそび 昨日の記憶畫、及びその話 家作りの續き、 第一部談話會	自由遊び 昨日のつどき、玩具、寫眞 陳列、おくりもの包裝、手 紙かき等、プログラム作り クリスマスツリー作り、遊 戯、お話をあそび、 唱歌(練習)	自由あそび 昨日のつどき、玩具、寫眞 陳列、おくりもの包裝、手 紙かき等、プログラム作り クリスマスツリー作り、遊 戯、お話をあそび、 唱歌(練習)
六	五	四	自由あそび	自由遊び	自由あそび
學藝會の練習					

保育手帳から

十二月二日（自由遊び中）

俊次（五年五ヶ月） 晏（五年五ヶ月）

寛方（五年二ヶ月） 貞子（五年一ヶ月）

澄子（五年六ヶ月）

俊次「俊はい、石を見つけたよ。」

晃「俊ちやん僕にね。」

俊次「うん、あげる。」

貞子「俊ちやん、あたしにもね。」

俊次「だめ、あげない。」

寛方「俊ちやん僕に頂戴ね。」

俊次「あゝあげる、君は男だから。」

澄子「あら、あたしには？」

俊次「あげない。澄子さんも女だから。男ならど
んなに大きい人でも、小ちやい人にでもあげる。」

俊次「だけど女はあげられない。」

髪の毛さへ長くすれば男でも女になれると主張し

男も打交つておまゝ事をし、女も三輪車に乗り剣
を振り廻してゐる幼児の世界にも、そろ／＼「女
なるが故に。」を以てされる區別は芽生えて參りま
した。

十二月六日（縁先に筵を敷いておまゝ事をしなが
ら）

年齢（五年一ヶ月より六年未満のもの）

裕子「お母様。赤ちやん連れてお医者様へ行くの
でせう。」

あや「さうですよ。早くお仕度をなさい。」

勇次「僕は醫學博士だから注射してあげるよ。」

裕子「赤ちやん、早くなさい。いゝおぐべに着か
へるのよ。」

雅子「奥様、お客様でございます。お通し申しま
せうね。」

奥様のあや子「チヨツ」と舌打して、帶と懷の
間に手をさし入れるまねして。

あや「さうを。ほんといやになつちまふわね。

ごはん時にばかり人が来て。ねえや仕方がない

からお井でもいつてあすいものこしらへて頂

戴。」

雅子「はい。かしこまりました。」

十二月七日（傳通院へ散歩の歸途）

恒子（四年十ヶ月）「先生あれお墓でせう。」

ト部「さうですよ。」

恒子「お墓には死んだ人を埋めるんでせう。」

ト部「よく御存じね。さうですよ。」

恒子「先生、誰でも人は死ぬと神様になるのね。」

ト部「さうですね。」

恒子「神様はお偉いのでせう、そいでなぜ偉い神

様を地めんの下に埋めてしまふの？」

こんな問ひにあつた私ははたしてどんな答をし

たのがよいとせうか。毎日の保育は總て保姆自身

の人格修養信念から生れて來るといふ事を痛切に

感じ、同時に強い刺戟を與へられるので御座います。

次に幼児のお話の中から續きを記しませう。

季子（四年一ヶ月）四月二十七日昨日の植物園

行に就て發表、おたまじやくしが居て猿がるたの。

大きな金魚と蛙を見たの。

同人（四年三ヶ月）五月九日

（一）ね、或とこに猿とライオルが居てごちさう食べようと思つたら、ピヨンと犬がたべちゃつたの。

季子が纏まつたものを話したのは是が最初であります

が、次々に話す度に長さが長くなり、從て内容は複雑になりますが混沌として來てるるのが

知れます。

（二）同人五月二十日

或所におばあさんとおぢいさんが居たの、お婆

さんは川に洗濯に行つてお爺さんは薪木をとりに行つたの、桃が流れて來たの、それを持つて歸つ

て、お爺さんの歸るのを待つてゐたの、お晝になつたから桃を割つたら中から桃太郎が出て來たの

(三) 同人(六月六日)

ね、あのね或處にボウフラが居たの、ボウフラがあつてね、人間が來てお家へ持つて行つて食べたの、今度蟹が袋を持つて來てね、預つて頂いていつたの、それに蠅が入つて袋を開けたら蠅がなくなつて、今度又何か取つて來て其袋に入れて又人間の所に置いて、又なくなつて又入れて來たら又なくなつてね、今度は山の中へ持つて行つて食べたの。

(右は狐の旅の談話をきいてから數日の後に話したもの)

(四) (五) 略す。

(六) 同人(七月三日)

あのね或處にお山があつてそこに鬼が居て、桃太郎さんが來たら鬼がひつかかうとしたら、桃太

郎さんの方が勝つて色々な物貰つて歸つたの、おしまひに犬が來て「桃太郎さん」と言つたの。びっくりして見たら犬だつたの。向ふへ行つて木の枝に寝てゐたら桃太郎さんのお母さんが死んであとから熊が來てそれを食べたの、今度達ふ熊が来てたべようと思つてずつと行くと大きな木の所へ來たの。犬が下で寝てゐて七面鳥が一等上に乗つかつて寝て、其下に猫がねて朝になつたからずっと歸つて、お腹が痛いからと言つて薬をのんで歸つたら御馳走が一ぱいあつて、ベロベロ食べたら御馳走が半かけになつて、今度見たら無くなつてからつぼになつたの、今度おしつこをして歸らうとしたらどぶに落つこつて川の方へ流れていつたの。そこでおしまひ。

桃太郎の話をしてゐるうちに前に聞いた話のフレーメンの音樂師、猫と鼠等が次々に思浮び、それに自分の腹痛の事、幼稚園をかへりがけか

ら家へかへるまでの生活事項等の思浮んだものが此話を作り出してしまつたものと想像されます。

(七) (八) 略す。

(九) 同人(九月七日)

太郎と象が一緒に植物園へいつたの。夕方にはさうだから早くうちに歸らうと思つて、象に御馳走をやつたの、夜になつて寝たの、又起きてね顔を洗つてね、太郎さんがごはんを食べたの、象も食べたいと思つて食べたの。それから二人で紙をとつて來たの、貝を箱に入れたのそれで今度象と一緒にね植物園へ行つて又遊んでね、それから夕方だから歸つて來て寝たの。そしたら向ふからお日様が明るいの。それが夢だと思つてゐたら本當で釣桿を持つて川で象とも魚を釣つてゐたの。もう一度顔を洗つて御飯を食べて口をすゝいでそれから魚を取りに行つて夕方になつて歸つたの。向

ふへ行うと言つたら熊も行こうといつたので色々のものをもつて動物園に行つたの一緒に遊んでみると熊が怒つたので、はねかへり泳いで向ふへ行つて窓から眠つてしまつたの。黒い熊があ砂場で遊んでゐたらだん／＼大きくなつて、今度はおつかない熊になつてお刺身を食べたの。今度は大根をちぎつて來て夜の御飲に添へて食べたの。夜寝てね向ふへ行つたのそこで象も向ふへ行こうと思つたら兎が居たの。そこで兎のお家に行つたの、兎に天國につれて行つてもらつて御馳走になつたの。今度はお菓子をお土産にもらつて一寸寝るとお家の近くに歸へつて來てゐたの、向ふからお日様がお呼びになつたの。顔を洗つていらつしやいといつて、それで太郎と象は御飯を食べて行つたら、本を讀んで少し遊んでから長い道を通りて象と一緒に三越へ好きなものを買ひに行つたの。象と遊んで砂を買つて來て砂の上に寝て、朝は顔を

洗つて御飯を食べて、お晝は朝顔に花を咲かせて
幾つ咲。たか數へたら七つあつて、水をやつたら
良く開いたの。花がもう一つ咲いて家へ歸へると
待つてゐたの。今度は向ふの方の電車に乗つて、
曲つて行つたかと思つたら、電車はちやんといつ
て自動車がまがつたの。象と一緒に海岸へ行つて
象が「面白い。」といつてお魚を澤山釣つたの。餘
り澤山釣つたので鼻がいがんでしまつたの。少し
すると眼が覚めて、夢だつて、お家で人形と遊ん
でゐたの。

右の話を初めてから終る迄の時間は實に二十分
間で話が終ると聴いてゐた十數人の子供はため
いきを致しました。速記する者もなか／＼困難
でした。此の種のはあと二三ありますが略しま
す。



靜岡縣保育會第二十二回總會

靜岡縣保育會第二十二回總會準序

昭和三年十月二十一日兩日間午前九時開會

第一日 十月二十日

一、會場 靜岡市馬場町櫻花幼稚園

一、實地保育觀察 櫻花幼稚園々兒各兒の登園よ

り始まり午前十一時迄

一、研究會

引續き研究會午後四時終

一、遊戲交換會

會員遊戲持合せ交換會

保育の狀況を參觀し、午後はそれに對する質問討

議に花を咲かせて、會員の熱心なる研究に日の暮

るゝをも忘れるほどであつた。同夜は遊戯交換會

をなして更ぐるを知らす、第二日も引續き會員の

研究發表並びに午後に於ける倉橋先生の生活に依

る教育と題する御講演を拜聽して、益々斯道に光

明をみとむることを得たるは喜ばしき限りであつ

た。當日參集せる會員數は百三十名近來になき盛

會であつた。

第二日 十月二十一日 午前九時開會

一、會場 靜岡縣教育會館

一、會務報告

幹事改選

研究發表

大講演會

自午後一時至午後三時三十分

講師 東京女子高等師範學校教授

倉橋惣三先生

演題 生活による教育

上

一、閉會

文規定

稟告

一、幼稚園及び小學校、家庭、育児、看護等に關する論說

調査研究等の寄稿を歓迎いたします。

一、寄稿は一行二十四字詫に記して下さい。但改行は一字下げる事と、また句讀點は一字あけること。

一、寄稿並に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新刊書、交換雑誌、入會手續、更に本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切左記編輯兼發行所宛に願ひます。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協會

一、本誌購讀御希望の方は日本幼稚園協會に御加入下さい
居所、氏名を明記し會費前金にて東京女子高等師範學校

附屬幼稚園協會員外にて本誌御注文の方は凡て前金（郵稅共）で願ひます。（郵券代用の場合には總て一割増）
一、御送金の場合はなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六番

二、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。

一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印を押捺いたしますから其簡は早速御送金を願ひます。
一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

定期	一ヶ月分一冊	金參拾五錢	送料貳錢
半ヶ年分六冊	金貳圓拾錢	送 料 共	

（外國行郵發是一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）

昭和三年十一月十二日印刷
昭和三年十一月十五日發行

幼兒の教育 第二十八卷第十一號

不許複製
轉載 編輯兼
行者 堀 七 藏

東京府豐多摩郡戸塚町大字戸塚五七五
東京市麹町區飯田町二丁目五十番地

印刷者 猪木 卓

印刷所 京華社印刷所

發行所 日本幼稚園協會
振替口座東京一七二六六番
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

特等面二頁 金參拾圓 二等面一頁 金貳拾圓

一等面二頁 金貳拾五圓 一頁以下御斷
神田區南甲賀町八品川奥松に御申込下さい。

廣告

賜 覧 台

觀察繪本キンダーブック

豫約會員

募 集

文部大臣 下推辭

從來の繪本が多く想像の方面を主としたるに反しキンダーアツクは事實の方面に立脚して觀察の資に供せんとするは確かに一新生面を開拓せるものにして汎く兒童教育界を裨益すること渺からずと信ず

文部大臣

勝田主計

高橋虎雄先生監修

第五編

「犬の巻」が出來まし

- | | |
|------------|----------------------|
| 第一編 お米の巻 | 東京帝國大學教授 農學博士 淺見與七監修 |
| 第二編 乗物の巻 | 鐵道省技師 工學士 山口貫一監修 |
| 第三編 櫻の巻 | 櫻の研究家 男爵 本多副泰監修 |
| 第四編 養蠶の巻 | 東京府立農事試驗場長 中西健一監修 |
| 第五編 皇室の巻 | 宮内省御用掛 文學博士 關根正直監修 |
| 第六編 犬の巻 | 犬の研究家 高橋虎雄監修 |
| 第七編 雪と氷の巻 | 「子供の科學」主幹理學士 原田三夫監修 |
| 第八編 正月行事の巻 | 巖谷小波監修 |
| 第九編 電氣の巻 | 伊藤奎二監修 |
| 第十編 人形の巻 | 荒木彥造監修 |

家庭電氣普及會常務理事
工學博士 東京セルロイド製造所美術顧問

下山白喜川石川東京市替
(○四六一九)

ベルレフ館

株式
會社